

## 令和1（2019）年度 第1回 水工学委員会および幹事会

日 時：令和1年6月6日（木）14:00～17:00

場 所：土木学会 2階 AB 会議室

### 0. 清水委員長挨拶

#### ≪報告事項≫

1. 令和元年度水工学委員会構成（幹事長），各委員自己紹介 資料1 p.1
2. 令和元年度水工学に関する夏期研修会（名古屋大学，戸田委員） 資料2 p.5
3. 水シンポジウム2019in滋賀（幹事長） 資料3 p.6
4. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画 資料4 p.22
  - ▶部 会：水文部会（田中賢委員，資料4-1）  
河川部会（渡邊委員，資料4-2）  
基礎水理部会（杉原委員，資料4-3）  
環境水理部会（矢野委員，資料4-4）
  - ▶小委員会：水害対策小委員会（赤松委員，資料4-5）  
ISO/TC113小委員会（萬矢委員，資料4-6）  
流量観測高度化小委員会（椿委員，資料4-7）  
グローバル気候変動適応研究推進小委員会（中山委員（代理 矢野委員），資料4-8）  
河道管理小委員会（田中規委員，資料4-9）
  - ▶関連委員会：CommonMP（立川委員，資料4-10）  
流域管理と地域計画の連携（立川委員，資料4-11）  
IAHR Japan Chapter（田中規委員，資料4-12）  
土木学会論文集編集委員会（内田委員（代理：泉委員，赤松委員），資料4-13）  
河川懇談会（清水委員長，資料4-14）  
水理公式集編集小委員会（清水委員長，資料4-15）  
*減災・防災委員会，海岸，沿岸域気候変動，沿環連，地球環境，環境システム，ISO対応，出版委員会*
5. 令和元年度の年間スケジュール（幹事長） 資料5 p.92
6. 水工学委員会の活動評価（幹事長） 資料6 p.93
7. その他 資料7 p.95

#### ≪協議事項≫

1. 令和元年度第64回水工学論文集査読スケジュール・編集作業（鼎編集幹事長） 協議資料1 p.1
2. 令和元年度第64回水工学講演会の開催について（大宮，田中規委員） 協議資料2 p.8
3. 令和2年度以降の水工学講演会，夏期研修会，水シンポジウム 協議資料3 p.20
  - ・令和2年度第65回水工学講演会の開催について（富山県大，手計委員，協議資料3-2）
  - ・令和2年度水工学に関する夏期研修会について（水工学委員会担当，幹事長，協議資料3-3）
  - ・令和2年度水シンポジウムについて（群馬県案，清水委員長，協議資料3-4）
  - ・令和3年度第66回水工学講演会の開催について（愛媛大，森脇委員，時期未定）
4. 令和3年度以降の水工学講演会のスケジュール（幹事長） 協議資料4 p.25

5. 水工学論文賞・論文奨励賞の内規変更について（幹事， 鼎編集幹事長）

協議資料 5 p.27

6. 令和元年度の水工学委員会の予算について

協議資料 6 p.28

<時間があれば議論>

7. 水工学論文集・通常号・河川技術論文集の棲み分け

8. 水工学メーリングリストの更新，活性化

9. その他

○水工学論文賞選考委員会報告（鼎編集幹事長）

1. 令和元年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について

2. その他



氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事	本委員会 &編集小	小委員会								部会					
						水害	グローバル	河道	流量	流域	COMMON	土論B	IAHR	公式集	水文	基礎	環境	河川	
芳村 圭	東大		関東													○			
知花 武佳	東大		関東		元編幹														○
浅沼 順	筑波大		関東	○												元部会長			
横山 勝英	首都大学東京		関東	○														○	
田端 幸輔	中央大		関東																○
戸田 祐嗣	名古屋大	河道管理研究小委員会幹事長/夏期研修会19担当	中部	○	元編幹		○	幹事長											元部会長
谷口 健司	金沢大		中部																○
武田 誠	中部大		中部					幹事											
堀 智晴	京大防災研		近畿					元委員長											
入江 政安	大阪大	海岸工学委員会交換委員	近畿				○											才	
大石 哲	神戸大		近畿		元編幹			才								元部会長			○
吉田 圭介	岡山大		中国	○															
三輪 浩	鳥取大		中国																
森脇 亮	愛媛大		四国	○															○
重枝 未玲	九工大	HP担当	西部	○					○										○
森本 輝	国交省・河川計画課河川計画調整室長		関東																
諏訪 義雄	国総研		関東																副部会長
萬矢 敦啓	土木研究所 (ICHARM)	ISO担当	関東						○										
佐藤隆宏	電中研		関東																
炭田 英俊	日本工営		関東																
天野 光歩	建設技術研究所		関東																
片山 直哉	パンフィックコンサルティング		関東																
藤原 賢也	国際航業		関東																
小原 一哉	いであ		関東																
石徹白 伸也	八千代エンジニアリング		関東																

### 顧問

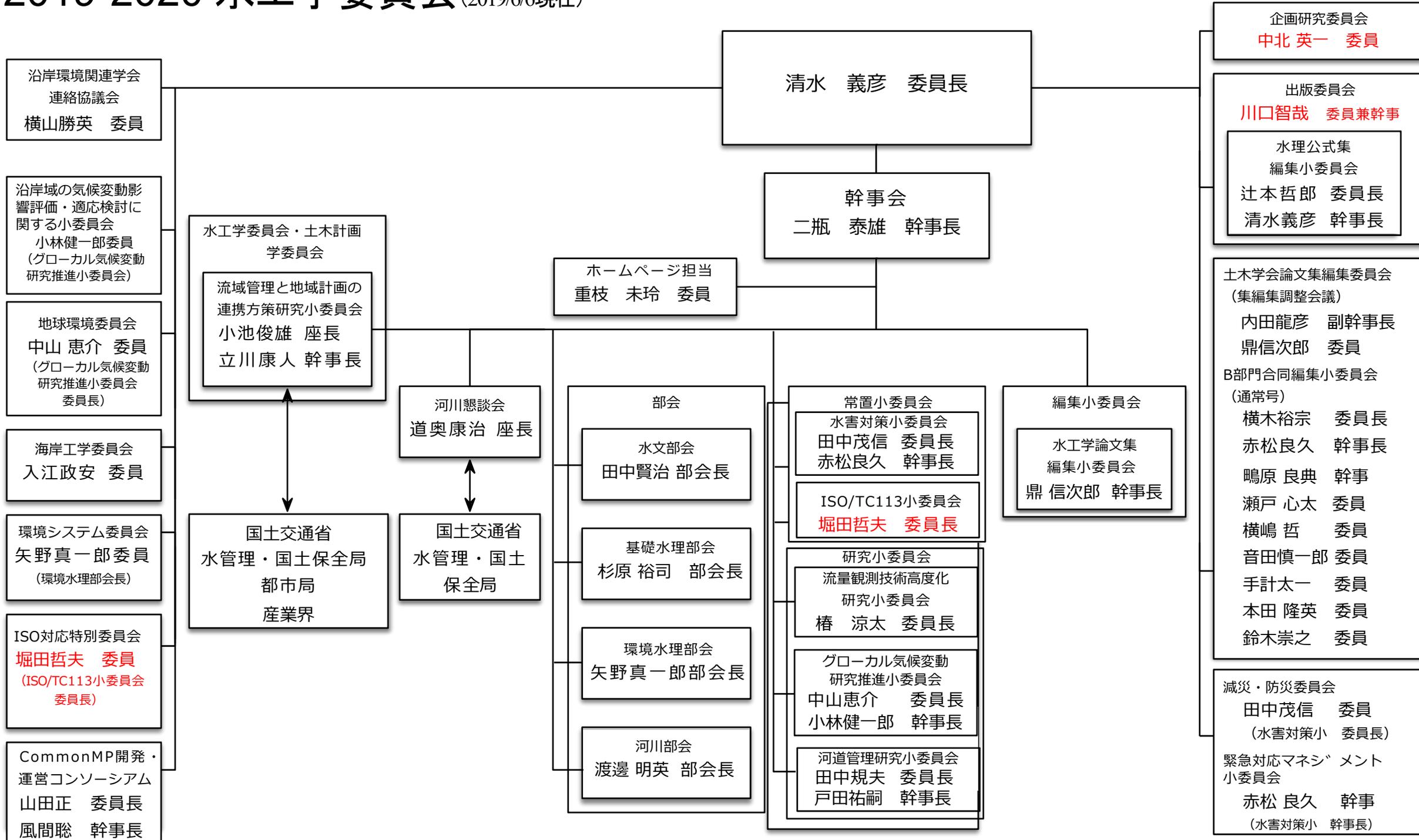
辻本 哲郎	名大
山田 正	中央大
中川 一	京大防災研

寶 馨	京大防災研
道奥 康治	法政大学
中北 英一	京大防災研

## 今年度の委員の特徴

- ・女性委員の増加  
0名→2名
- ・産・官の人数の増加  
産6名→8名, 官2名→4名  
全体に対する産官の割合: 16%→24%
- ・未来の水工学を担う「学」の若手研究者の加入  
中大・田端委員他

# 2019-2020 水工学委員会 (2019/6/6現在)



## 2019年度(第55回) 水工学に関する夏期研修会 計画書

主催:公益社団法人 土木学会(担当:水工学委員会, 海岸工学委員会)  
 後援:土木学会中部支部  
 日程:2019年9月9日(月)～9月10日(火)の2日間(A, Bコース並行開催)  
 場所:名古屋工業大学(愛知県名古屋市昭和区御器所町)  
 共通セッション:51号館5111号室  
 Aコース:52号館5211号室 Bコース:52号館5212号室  
 交通アクセス <https://www.nitech.ac.jp/access/>  
 キャンパスマップ <https://www.nitech.ac.jp/access/campusmap.html>



プログラム:

### Aコース(河川・水文)

《総合テーマ》:気候変動適応に向けた水工学・  
防災技術

#### ■9月9日(月)

9:10～	開会挨拶 水谷法美(名古屋大学)
9:15～ 10:45	《共通セッション》 力学的ダウンスケーリングによる台風ハザードの気候変動影響評価 竹見哲也(京都大学防災研究所)
11:00～ 12:30	《共通セッション》 スーパー伊勢湾台風来襲に備えた危機管理行動計画策定に向けた取り組み 松尾 修(中部地方整備局河川部)
13:30～ 15:00	粒子フィルタを用いた実時間洪水予測手法 立川康人(京都大学)
15:15～ 16:45	都市浸水に関する解析法とその活用 武田 誠(中部大学)

#### ■9月10日(火)

9:15～ 10:45	《共通セッション》 防災まちづくり(都市計画)(案) 加藤孝明(東京大学生産技術研究所)
11:00～ 12:30	《共通セッション》 災害ごみの最新の知見とその対策 平山修久(名古屋大学減災連携研究センター)
13:30～ 15:00	土砂・流木災害 里深好文(立命館大学)
15:15～ 16:45	2018年西日本豪雨による河川災害の概要と課題 前野詩朗(岡山大学)

### Bコース(海岸・港湾)

《総合テーマ》:伊勢湾台風60年:高潮・高波・  
沿岸防災の過去・現在そして将来

#### ■9月9日(月)

9:10～	開会挨拶 水谷法美(名古屋大学)
9:15～ 10:45	《共通セッション》 力学的ダウンスケーリングによる台風ハザードの気候変動影響評価 竹見哲也(京都大学防災研究所)
11:00～ 12:30	《共通セッション》 スーパー伊勢湾台風来襲に備えた危機管理行動計画策定に向けた取り組み 松尾 修(中部地方整備局河川部)
13:30～ 15:00	愛知県における高潮防災の取り組み 益田 俊(愛知県建設局河川課)
15:15～ 16:45	高波及びうねりによる越波災害と技術的対応 平山克也(港湾空港技術研究所)

#### ■9月10日(火)

9:15～ 10:45	《共通セッション》 防災まちづくり(都市計画)(案) 加藤孝明(東京大学生産技術研究所)
11:00～ 12:30	《共通セッション》 災害ごみの最新の知見とその対策 平山修久(名古屋大学減災連携研究センター)
13:30～ 15:00	高潮数値モデルの開発と気候変動影響評価への適用 安田誠宏(関西大学)
15:15～ 16:45	伊勢湾台風とその後の防災 喜岡 渉(名古屋工業大学名誉教授)

定員: Aコース150名, Bコース150名

受講料: 1コースにつき, 一般16,000円, 学生・院生10,000円(いずれも講義集代を含む)

申込方法: 土木学会ホームページ: <http://qqq.jece.or.jp/event/===>

もしくはFAX(学会誌巻末に掲載される「本部行事参加申込用紙」)をご利用ください

申込締切日: 2019年8月30日(金)【必着】

申込締切日前に定員に達している場合がございますので予めご了承ください。

締切日以降の事前受付は致しませんが, 定員に余裕があれば行事当日会場にて受付します。

問合せ先: 土木学会 研究事業課 TEL:03-3355-3559(担当:林)

備考: 会場の詳細, 講義の変更等の最新情報に関しては, 下記ホームページでご確認下さい

海岸工学委員会ホームページ

<http://www.coastal.jp/ja/>

水工学委員会ホームページ

<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/>

「第 24 回水シンポジウム 2019 in しが」  
実行委員会等名簿

別表 1 実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会 水工学委員会	委員長	清水 義彦	群馬大学
	近畿地方整備局河川部	部長	中込 淳	
	滋賀県土木交通部	部長	川浦 雅彦	
	大津市未来まちづくり部	部長	玉井 義文	
	土木学会 水工学委員会	幹事長	二瓶 泰雄 ※1	東京理科大学
	土木学会 水工学委員会	委員	立川 康人 ※1	京都大学
	土木学会 水工学委員会	委員	里深 好文 ※1	立命館大学
	土木学会	会員	瀧 健太郎	滋賀県立大学
	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所	所長	水草 浩一	
	滋賀県土木交通部	流域政策局長	寺田 建吉	

※1 企画部会を兼務

※2 委員がやむを得ない事由により欠席する場合、その委員がその所属する団体や会の役員等の中から代理人を定め、その者を代理人として出席させることができることとする。

別表 2 企画部会（○企画部会長）

	機関名	役職名	氏名	備考
○	土木学会 水工学委員会	幹事長	二瓶 泰雄	東京理科大学
	土木学会 水工学委員会	基礎水理部会長	杉原 裕司	九州大学
	土木学会 水工学委員会	委員	立川 康人	京都大学
	土木学会 水工学委員会	委員	里深 好文	立命館大学
	近畿地方整備局河川部	河川計画課長	橋爪 翔	
	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所	副所長	小谷 敏文	
	滋賀県土木交通部流域政策局	副局長	岸田 孝史	
	大津市未来まちづくり部	技監	松野 芳樹	

別表 3 事務局

	機関名	役職名	氏名	備考
	土木学会	研究事業課	橋本 剛志	
	土木学会 水工学委員会	基礎水理部会員	音田 慎一郎	京都大学
	近畿地方整備局河川部河川計画課	課長補佐	春藤 千之	
	近畿地方整備局河川部河川計画課	調査第二係長	有本 浩太郎	
	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所調査課	課長	北川 眞一	
	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所調査課	調査係長	石田 茂和	
	滋賀県土木交通部流域政策局	室長補佐	井元 浩之	事務局長
	滋賀県土木交通部流域政策局	室長補佐	谷口 俊幸	
	滋賀県土木交通部流域政策局	副主幹	中西 宣敬	
	滋賀県土木交通部流域政策局	主査	岡地 厚	
	滋賀県土木交通部流域政策局	主査	北井 剛	
	大津市未来まちづくり部道路・河川管理課	課長	秋田 守弘	
	大津市未来まちづくり部道路・河川管理課	課長補佐	坂本 和好	
	大津市未来まちづくり部道路・河川管理課	副参事	南 康浩	

## シンポジウム開催日程・会場について

### 【日程】

2019年8月22日（木）から8月23日（金）〔2日間〕

全国各地で開催されたこれまでの水シンポジウムは、例年、夏の時期に多く開催されており、近年では8月のお盆明け、木曜日・金曜日を基本として実施日を決定している。

これまでの水シンポジウムの実績や夏休み期間中の開催に配慮し、平成30年11月13日の第1回実行委員会・企画部会合同会議にて決定し、承認された。

8月22日（木）	シンポジウム
8月23日（金）	現場見学会

### 【会場】

ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）

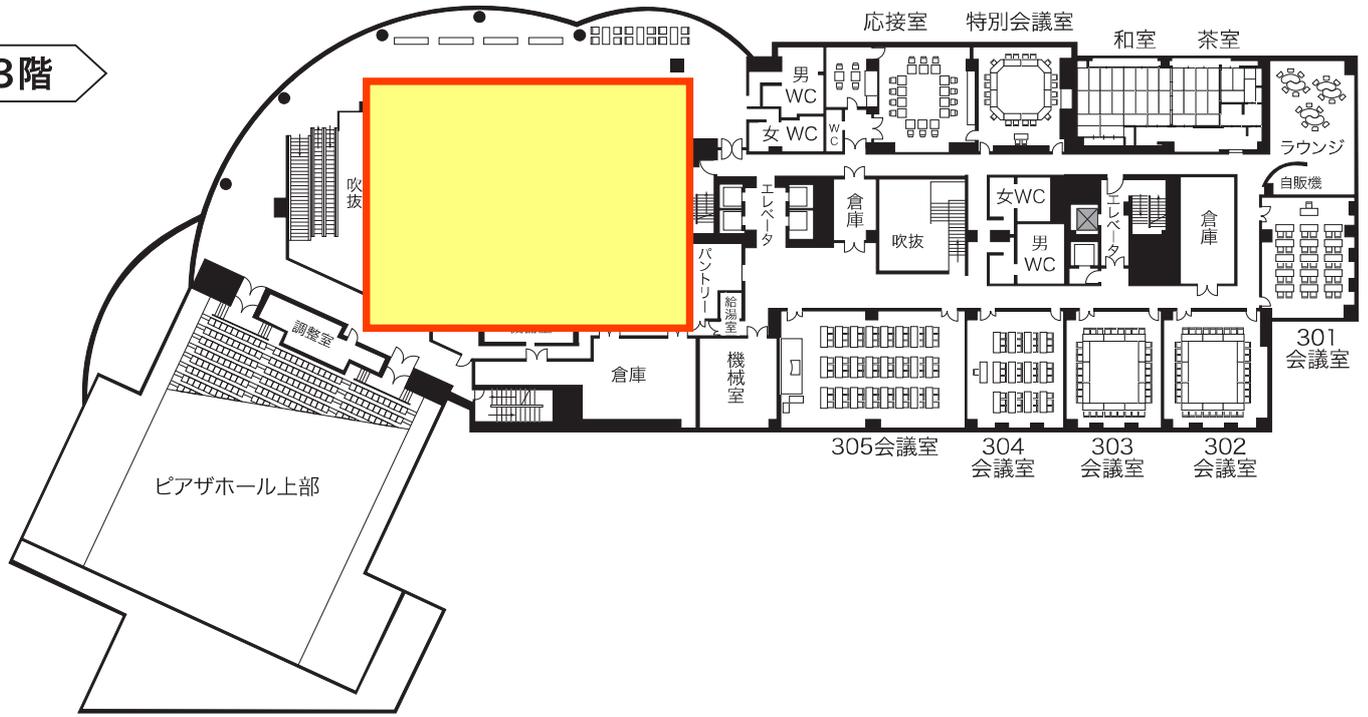
大津市におの浜1-1-20（JR膳所駅徒歩12分）

第1回実行委員会・企画部会合同会議において、収容人数、立地条件、会場使用料などを考慮した上で、下記のとおり承認された。ただし、分科会会場については、参加者数による入れ替えについて検討された。

- メイン会場       ：ピアザホール（2階）約400席
- 第1分科会会場：ピアザホール（2階）約400席
- 第2分科会会場：大会議室（3階）約200席【ステージを設置】
- 控え室等：（会議室を確保する予定）

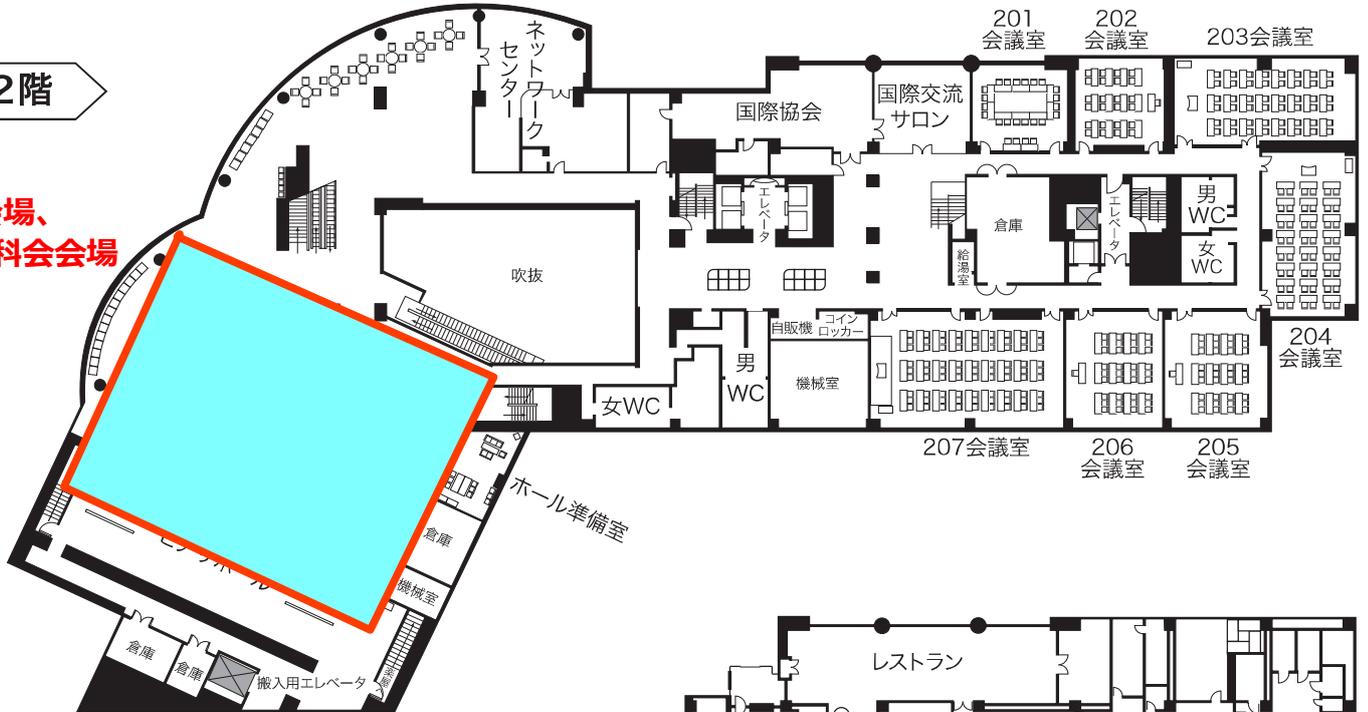
## 第2分科会会場

3階

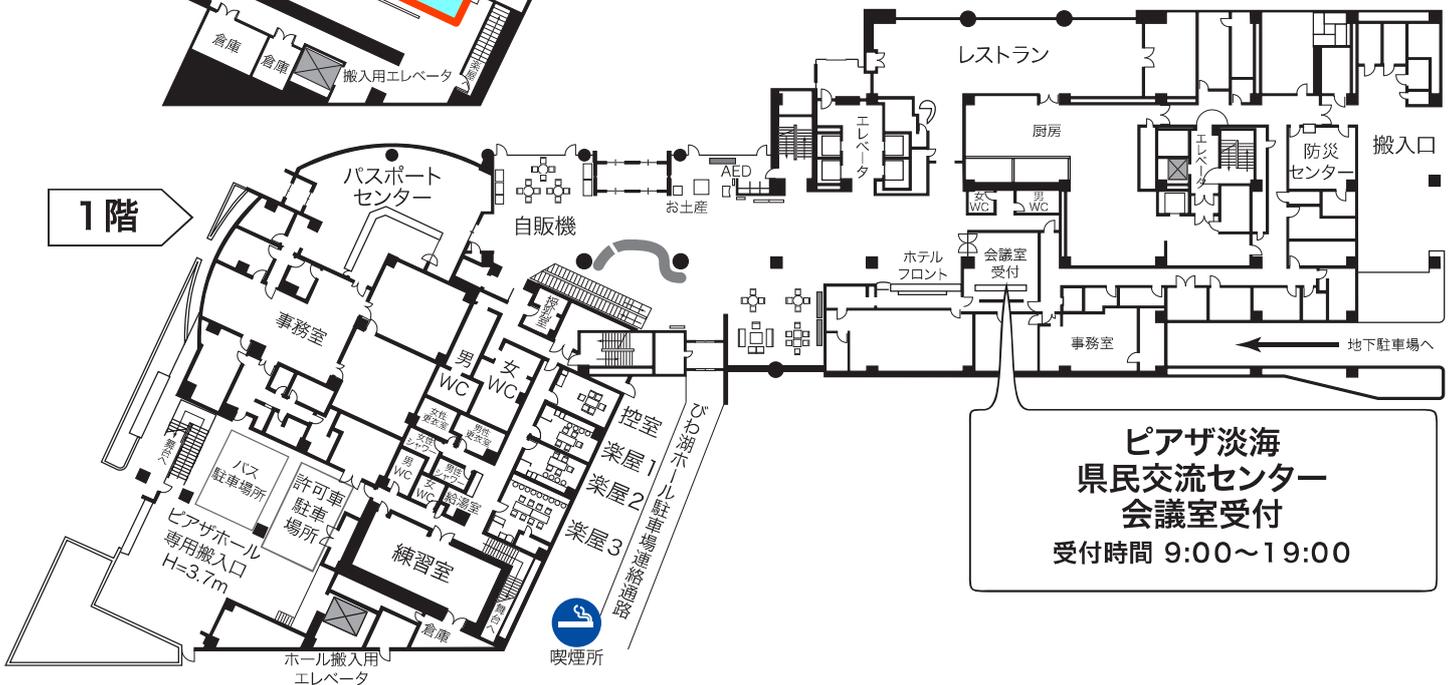


2階

メイン会場、  
第1分科会会場



1階



「第 24 回水シンポジウム 2019 in しが」  
メインテーマ（案）

1. 第 1 回実行委員会・第 1 回企画部会 合同会議での提示案

美しい琵琶湖を将来世代へ引き継ぐために  
～人と川・湖とのより良い関係を目指して～

- （いただいたご意見） ・過去のテーマに比べてシンプルすぎる。  
・ぱっと目を引く言葉が入るとよい。

2. 第 2 回企画部会（案）

案 1：マザーレイク  
～母なるびわ湖と人のつながりの再生を目指して～

案 2：淡海（おうみ）の国から水辺の暮らし方の発信  
～しがの流域治水と水辺空間の利活用～

- （いただいたご意見） ・案 1 が良いが、「琵琶湖」だけが対象のように見える。  
・主旨中の「森、川、里、湖」を使ってはどうか。

3. 第 2 回実行委員会での提示案

マザーレイク  
～森・川・里・湖のつながりの再生を目指して～

<主旨（着眼点）>

琵琶湖は 275 億トンもの水をたたえ、近畿圏約 1,450 万人の生活と産業を支える水源であり、治水機能や観光資源など様々な役割を担うとともに、400 万年の歴史を持つ古代湖であり、多様な生物を育み、多くの固有種や食料となる魚介類が生息しています。

しかし、琵琶湖は現在水質が改善する一方で、外来種の侵入やアユの不漁が平成 28 年末から昨年にかけて生じるなど、漁獲量の減少が続くとともに、水草が大量繁茂するなど「生態系のバランスが崩れてきた」状態にあります。

また、本年は、死者 16 人、住家流失 15 戸、住家全壊 342 戸、半壊 1,309 戸、床上浸水 5,920 戸、床下浸水 19,816 戸という甚大な被害をもたらした昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風の来襲から 60 年の節目を迎えます。近年では平成 25 年台

風 18 号、平成 29 年台風 21 号、平成 30 年 7 月豪雨等、相次ぐ台風の襲来や線状降水帯に伴う豪雨により、河川の氾濫や琵琶湖の水位上昇が頻発する等、想定外にも備える防災・減災の重要性が、改めて強く認識されているところです。

このような中、滋賀県では、平成 26 年度に「滋賀県流域治水の推進に関する条例」を制定し、どのような洪水にあっても県民の生命を守り、甚大な被害を回避するための対策を進めるとともに、平成 29 年度には「琵琶湖の保全再生に関する計画」を策定し、森、川、里、湖のつながりや人の暮らしと湖とのつながりの再生を進めているところです。

滋賀県では、古来より人々の暮らしに密接に関わってきた琵琶湖やその周辺の河川について、「超過洪水を視野に入れた防災・減災対策」、「水辺の利用と環境保全」に着目し、これからの水との関わり方についての提案を、滋賀から全国へ発信します。

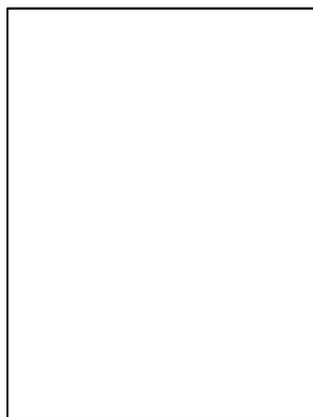
## 「第24回水シンポジウム2019 in しが」プログラム(案)

日	時間	場所	概要			時間 (分)	
			項目	内容	該当者等		
8月22日 (木)	9:30 - 10:00	ピアザホール (メイン会場)	開場	来場	一般来場者 (350人程度を想定)	30	
	10:00 - 10:35		開会		シンポ趣旨説明	司会	2
					開会挨拶	実行委員会委員長	8
					実行委員紹介	司会より紹介、檀上一礼	2
				来賓挨拶		滋賀県知事	5
						大津市長	10
						近畿地方整備局長	5
			プログラム案内	司会	3		
	10:35 - 11:25			講演①	特別講演	講師：京都大学防災研究所教授 中北英一氏	50
	11:25 - 12:15			講演②	基調講演	講師：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター長 内藤正明氏	50
	12:15 - 13:15	ピアザホール 入口	昼休憩	パネル展示 (事例・活動の紹介)	学会、国、県、市、協賛団体 分科会、発表等に関わる団体等	60	
	13:15 - 14:55	ピアザホール	分科会	第1分科会 (担当：土木学会)	パネリスト (学識者、行政、市民団体等)	100	
		大会議室		第2分科会 (担当：行政)	パネリスト (学識者、行政、市民団体等)	100	
	14:55 - 15:10	休憩					15
15:10 - 15:50	ピアザホール	発表	市民団体等による発表	市民団体	40		
	ホール控室	全体会議 事前打合せ	第1分科会 第2分科会	実行委員会委員長 第1・2分科会コーディネーター コメンテーター	40		
15:50 - 16:50	ピアザホール	全体会議	分科会まとめ メッセージ発信	実行委員会委員長 第1・2分科会コーディネーター	60		
16:50 - 16:55		挨拶	次回開催県	未定	5		
	16:55	閉会					
8月23日 (金)	9:00 - 15:55	大津・草津方面	現地見学会	貸切バス2台	事前申込者 (40人程度を想定)	—	

「第24回水シンポジウム2019 in しが」  
特別講演及び基調講演について

1 特別講演

- (1) 講演者 京都大学 防災研究所 教授  
気象・水象災害研究部門 水文気象災害研究分野 中北英一 氏



- (2) 講演タイトル 『  
』  
(講演時間 50 分)

(3) プロフィール

■ 経歴

- 1985年：京都大学防災研究所水資源研究センター 助手  
1991年：京都大学防災研究所水資源研究センター 助教授  
2000年：京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻環境情報工学講座  
助教授  
2003年：京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻環境情報学講座  
助教授  
2004年：京都大学防災研究所水資源研究センター 教授  
2005年：京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門水文気象災害研究分野  
教授（現職）  
2015年～2017年：京都大学防災研究所 副所長

■ 学会。社会活動等

- 国土交通省（本省）：気候変動を踏まえた治水計画に係わる技術検討会 委員  
気象庁及び文部科学省：気候変動に関する懇談会委員  
国土交通省（本省）：実効性のある避難を確保するための土砂災害対策検討 委  
員会委員  
国土交通省（本省）：異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能に関する検  
討会 委員  
国土交通省（本省）：社会資本整備審議会、河川分科会、大規模広域豪雨を踏ま  
えた水災害対策検討小委員会 委員  
(いずれも2018年～現在)

## 2 基調講演

- (1) 講演者 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
センター長 内藤 正明 氏



- (2) 講演タイトル 『 (講演時間 50 分) 』

### (3) プロフィール

#### ■ 経歴

- 1962年 京都大学工学部衛生工学科卒業
- 1969年 京都大学工学博士、京都大学工学部助教授
- 1974年 国立公害研究所（現 国立環境研究所）
- 1983年 国立環境研究所 総合解析部長
- 1995年 京都大学大学院工学研究科 教授
- 2000年 NPO 法人循環共生社会システム研究所 代表理事（現職）
- 2003年 京都大学 名誉教授
- 2005年 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター センター長（現職）

#### ■ 学会。社会活動等

国や地方自治体の環境政策に研究者として関わりながら、2000年にNPO法人循環共生社会システム研究所を設立。環境問題を真に克服するための社会のあり方、自然と共生した社会の実現に向けた研究、情報発信を展開されている。

#### ■ 主な著書

- 環境ガバナンス論【監修】、京都大学学術出版会、2007
- 琵琶湖ハンドブック改訂版【監修】、滋賀県、2012
- 滋賀県発！持続可能社会への挑戦 科学と政策をつなぐ【編著】、昭和堂、2018

※ 引用元：NPO 法人循環共生社会システム研究所 HP

## 「第24回水シンポジウム2019 in しが」 第1分科会について

〔担当；土木学会水工学委員会〕

### 1 方向性

近年頻発する洪水被害を踏まえ、水防法が改正され、国土交通省では「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画が策定され、「大規模氾濫減災協議会」の設置、水害タイムラインの作成等の取り組みが進められている。また、滋賀県では、平成25年度に「滋賀県流域治水の推進に関する条例」を策定し、水害に強い地域づくりの実現を目指している。施設だけでは防ぎきれない洪水の発生に備え、ハード・ソフトが一体となった、これからの治水対策のあり方について、流域治水先進県である滋賀から全国へ向けて発信する。

### 2 テーマ：「滋賀から発信するしなやかで強靱な流域治水のあり方」

（主旨）

近年の気象現象、豪雨の発生状況等について理解を深め、“水の威力”からの減災を図るために、行政、研究者、自主防災組織、地域住民などのそれぞれの立場から水害に強い地域づくりに向けた方策を探る。命を守ることを第一とする視点を共有し、優れた地域防災力を有する”しなやかで強靱な”流域治水のあり方について議論・提言する。

### 3 登壇者（要調整）

コーディネータ 土木学会水工学委員会基礎水理部会長 九州大学 教授 杉原裕司氏  
パネリスト

#### （1）学識者

立命館大学 教授	里深好文氏	（河川工学）
滋賀県立大学 准教授	瀧健太郎氏	（流域政策・計画）

#### （2）行政職員

米原市都市計画課	□□□□氏	（入江干拓 建築基準）
滋賀県土木交通部流域政策局長	□□□□氏	（河川管理者）

#### （3）地域代表

NHK 大津放送局アナウンサー	大山武人氏	（報道）
日経コンストラクション副編集長	真鍋政彦氏	（2010～流域治水を取材）
米原市村居田区 区長	□□□□氏	（水害に強い地域づくり取組地域）

# 「第24回水シンポジウム2019 in しが」

## 第2分科会について

〔担当；行政（国土交通省・滋賀県・大津市）〕

### 1 方向性

近年、上水道や道路の整備等により、琵琶湖や川等の水辺と人との接点が減少してきている。そこで、琵琶湖やその流入河川等の水辺空間の魅力を再認識し、環境保全や水辺の利活用を通じた産官学民の連携を考え、今後の潤いのあるまちづくりの方向性を探る。

### 2 テーマ

「水辺における利用推進と環境保全の相乗効果」

（主旨）

琵琶湖は近畿約 1,450 万人の生活・産業を支える水源であるだけでなく、アユやビワマス等の水産資源の供給、景観を生かしたカフェやレストラン、ピワイチ（琵琶湖一周サイクリング）、瀬田川ぐるりさんぽ道、キャンプ場、水浴場等、多種多様な利用がなされている。一方、近年、アユの不漁や水草の大量繁茂、外来種の侵入等により、琵琶湖を中心とした生態系に変化が生じてきている。

このような琵琶湖が有する多面的価値と現状の課題を再認識し、人と川・湖との関わり方について考え、次世代により良い琵琶湖を引き継ぐ方策を考える。

### 3 登壇者（要調整）

コーディネータ 土木学会水工学委員会 京都大学 教授 立川康人氏

パネリスト

#### （1）研究者

滋賀県立琵琶湖環境科学研究センター 主任研究員 佐藤祐一氏

#### （2）民間団体

(株)まちづくり大津 □□□□氏（水辺利用を含めた中心市街地活性化事業を実施）

(株)みらいもりやま 21 石上僚氏（中心市街地活性化、ホテル再生）

#### （3）行政職員

大津市未来まちづくり部まちづくり連携推進監 □□□□氏（まちづくり）

滋賀県琵琶湖環境部 □□□□氏（琵琶湖環境）

近畿地方整備局琵琶湖河川事務所長 □□□□氏（河川管理者）

## 「第24回水シンポジウム2019 in しが」 現地見学会（案）について

### 1. 概要

定員 40名 事前申込者のみ

参加費： 昼食代、保険代、琵琶湖博物館観覧料(一般750円、大・高400円)を実費負担

集合場所： JR大津駅北口

移動手段： 貸切バス2台

### 2. コース行程

時刻	行動・箇所		所要 時間(分)	備考
9:00		(8:45集合 JR大津駅(北口)) <出発>		
(移動)			25	
9:25	着	《見学①》 伯母川ビオ・パーク	40	琵琶湖へ流入する汚濁負荷軽減のための市街地排水浄化施設
10:05	発	(草津市木川町)		
(移動)			25	
10:30	着	《見学②》 琵琶湖博物館	70	琵琶湖の生い立ち・人と生き物との関わりについて学べる博物館
11:40	発	(草津市下物町)		
(移動)			35	
12:15	着	<昼食> 石山寺周辺	70	(土産購入含む)
13:25	発	(大津市石山寺)		
(移動)			10	
13:35	着	《見学③》 瀬田川洗堰・水のめぐみ館アクア琵琶	60	瀬田川流量調節のための可動堰 琵琶湖・淀川についての学習施設
14:35	発	国土交通省琵琶湖河川事務所 (大津市南郷)		
(移動)			35	
15:10	着	《見学④》 琵琶湖疏水	30	琵琶湖の水を京都市へ送る用水路 琵琶湖疏水観光船の取り組み
15:40	発	(大津市大門通)		
(移動)			15	
15:55		<解散> JR大津駅(北口)		

※上記時刻は目安であり、渋滞等、交通事情により若干の遅れが生じる可能性がある。

## 「第24回水シンポジウム2019 in しが」 広報計画について

### 1 広報計画

- (1) ポスター（1,500部）、チラシ（16,000部） ※静岡県、山口県と同数を想定

#### 【配布先】

- ・各都道府県、滋賀県内の市町
- ・主催団体、協賛団体、出演者、河川及びダム関係団体等
- ・県内高等学校
- ・県、市教育委員会

#### 【配布時期】

7月上旬予定

- (2) ホームページ

7月上旬予定

- (3) その他の広報

- (ア) 実行委員会構成機関のほか、協賛団体等のホームページに掲載し、実施内容等について周知を図る。
- (イ) 滋賀県や大津市等の広報を利用し、一般への周知を図る。

### 2 その他

- (1) 建設関係技術者の参加促進

土木学会 CPD の認定を受けられるよう準備し、協賛団体等に早めに情報提供して建設関係技術者の方々が平日でも参加できるように配慮する。

- (2) 市民団体等による水環境の保全活動のパネル展示

市民団体等による水環境の保全活動について、ポスター展示を行う機会を創出（昼休み）し、次世代を担う人材のシンポジウムへの参加を促す。

## 「第24回水シンポジウム2019 in しが」開催準備スケジュール（案）

年月	会議			主な議題	備考 〔第23回 静岡大会〕
	委員会	企画部	事務局		
<b>平成30年度</b>					
	(事前調整)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会メンバーの選出（内諾）</li> <li>・シンポジウムテーマ、分科会概要検討</li> </ul>	
10月30日			①	・第1回実行委員会、企画部会の事前調整	10月10日
11月13日	①	①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の設立</li> <li>・開催日程・会場の決定</li> <li>・メインテーマ、開催内容、予算(案)の審議</li> <li>・分科会のテーマ、役割分担の企画提案</li> </ul>	10月10日
11月				河川財団 助成金申請（申請期限；11月末）	11月29日
12月				協賛団体への協力依頼・調整	
1月				防災研究協会 助成金申請（6ヶ月前まで）	1月23日
1月15日			②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインテーマの審議</li> <li>・分科会のテーマ、内容の企画提案</li> </ul>	5月8日
1月29日		②		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地見学会の企画提案</li> </ul>	
3月20日	②			<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報計画の検討</li> </ul>	5月21日
3月下旬 ～4月上旬				<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催運営支援業務委託の発注</li> </ul>	5月
<b>平成31年度</b>					
5月上旬			③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム当日の動員計画等</li> </ul>	6月下旬
6月下旬			④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催内容の最終決定</li> <li>・広報計画の最終決定</li> <li>・会場レイアウトの最終決定</li> </ul>	7月上旬
7月上旬			⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日運営の最終確認</li> </ul>	7月下旬
8月21日				<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場準備及び各種リハーサル</li> </ul>	8月22日
8月22日				「第24回水シンポジウム2019 in しが」 シンポジウム	8月23日
8月23日				「第24回水シンポジウム2019 in しが」 現地見学会	8月24日
12月末			⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算</li> <li>・最終報告書の確認</li> </ul>	

## 「第24回水シンポジウム2019 in しが」予算（案）

## ■収入

（単位：千円）

項 目		金 額	備 考
負担金	土木学会水工学委員会	200	
	滋賀県	200	
	大津市	200	
	負担金 小計	600	
助成金	(公財)河川財団	2,000	申請額 2,000千円
	(一財)防災研究協会	200	申請額 500千円
	(一社)近畿建設協会	200	
	(一社)日本建設情報総合センター 近畿地方センター	200	賛助回答 H30.12
	(一社)日本建設業連合会 関西支部	200	
	(一社)建設コンサルタンツ協会 近畿支部	100	
	(一社)関西地質調査業協会	100	賛助回答 H31.3.6
	(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構	100	賛助回答 H31.2.12
	(一社)滋賀県建設業協会	100	賛助回答 H31.2.19
	(一社)滋賀県建設コンサルタント協会	100	賛助回答 H31.2.1
	(一社)滋賀県測量設計技術協会	50	賛助回答 H31.1.25
	滋賀県河港・砂防協会	200	
	助成金 小計	3,550	
合 計		4,150	

## ■支出

（単位：千円）

項 目		金 額	備 考
運営経費	会場・設備費	392	前日午後(準備)、当日の施設、及び付属設備の借上費用 (見積もり)
	企画、運営、設営等 (運営委託外注)	3,527	
	講演者、分科会出演者等	181	
諸経費	会議費、印刷費、通信費 等	50	
合 計		4,150	

## 「第 24 回水シンポジウム 2019 in しが」 開催中止の判断について

### 1. 主旨

開催時期の8月は出水期であり、事務局構成機関や出演予定者には、大雨による洪水等の自然災害に対応する責任を有している者もいること、また、多くの来場者を募るイベントであることから、シンポジウムの開催に関するリスク管理が必要である。

### 2. 判断

事前の気象情報により天候の把握に努め、適切な判断を行う。

◎台風が直撃する恐れがある場合等

■開催前々日の8月20日(火)17時までに、実施の可否(中止の判断)

◎中止の判断

■気象等に関する特別警報が発令された場合の対応も含めてシンポジウムの中止の決定は実行委員長が行う。※ただし、2日間まとめた判断ではなく、きめ細やかに判断する。(開催できるものは開催する方針)

なお、開催に要する費用が助成金や負担金などのため、さらなる資金集めは困難なことから延期は行わない事とする。

### 3. 連絡体制

#### (1) 関係者

以下の連絡員を通じて、関係者への連絡を行う。

関係先	連絡員	備考
土木学会水工学委員会関係	二瓶幹事長	
講演者	滋賀県流域政策局 ○○室長補佐	
国関係者	琵琶湖河川事務所 ○○係長	
大津市関係者	大津市道路・河川管理課 ○○課長補佐	
県関係者	滋賀県流域政策局 ○○室長補佐	
第1分科会パネリスト関係者	滋賀県流域政策局 ○○副主幹	
第2分科会パネリスト関係者	滋賀県流域政策局 ○○副主幹	

#### (2) 参加者

- ①会場入り口への張り紙と専用ホームページに情報を掲載する。
- ②メールアドレスの記載がある申し込み者には、全員に連絡を一斉送信する。
- ③メールアドレスの記載がない申し込み者については、滋賀県流域政策局と運営支援業務委託受託者で分担し、電話連絡を行う。

# 水シンポジウムの予算変更について

河川財団:

200万円申請(→H30年実績180万円)→R1年140万円に減額

水工学委員会負担:

50万円, 3月末に支払い→R1年 40万円追加

*※土木学会交流事業にて20万円申請予定*

# 水工学委員会2019年度第1回 水文部会報告

田中賢治  
京都大学防災研究所

## 水文部会構成

- 部会長
  - 田中賢治(京都大学)
- 副部会長
  - 鼎先生(東京工業大学)
- 河川部会連携委員
  - 吳先生(富山県立大学)
  - 仲吉先生(東京理科大学) **確認中**
- 地球環境委員会委員
  - 佐山先生(京都大学)

# 水文部会2018年度報告

- 水文研究集会 2018年11月8日～10日
  - 大井川(平成の大改修) **報告済**  
参加者28名
- 第1回水文部会 2018年11月27日
  - 水工学講演会期間中(学術交流会館第6会議室)  
参加者25名

# 水文部会2019年度活動予定

- 水文研究集会 2019年10月末～11月初
  - 由良川中流部 **調整中**  
(輪中堤、連続堤、宅地嵩上)



- 第1回水文部会 2019年11月4日～6日
  - 水工学講演会期間中

令和元年6月6日

## 土木学会水工学委員会河川部会資料

## ○2018年度河川部会

- 第1会委員会 2018年10月17日  
2018年度 河川シンポジウムの総括  
2019年度 河川シンポジウム 特定課題企画等
- 第2会委員会 2019年2月21日  
2018年度 技術論文賞の推薦論文の審議  
2019年度 河川シンポジウム OS/OPS 企画等  
要旨査読結果の審議
- 第3会委員会 2019年4月24日  
2019年度 河川シンポジウムの運営/OS・OPS プログラム等  
本論文査読結果の審議

○2019年度河川シンポジウム 2019年6月12日(水)-6月13日(木)  
東京大学農学部弥生講堂 (CPD 11単位)

添付資料：2019年度河川部会員名簿（学12名、官11名、民10名）  
（河川技術論文集編集委員[査読委員]及び  
シンポジウム実行委員会兼務）

添付資料：2019年度河川シンポジウム プログラム

	氏名	所属
部会長	渡邊 明英	(株)東京建設コンサルタント
副部会長	諏訪 義雄	国土交通省 国土技術政策総合研究所
副部会長	田村 浩敏	(株)建設技術研究所
副部会長	内田 龍彦	広島大学大学院 工学研究科
委員	田中 敬也	(公財)河川財団
	石塚 正秀	香川大学 創造工学部
	陰山 建太郎	日本工営(株)
	大澤 範一	(株)東京建設コンサルタント
	舟橋 弥生	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
	尾花 まき子	名古屋大学大学院 工学研究科
	川池 健司	京都大学 防災研究所 流域災害研究センター
	金澤 裕勝	(一財)水源地環境センター
	呉 修一	富山県立大学 工学部
	矢崎 剛吉	独立行政法人水資源機構
	島本 和仁	国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課
	太田 一行	(一財)電力中央研究所 地球工学研究所
	四位 和彦	三井共同建設コンサルタント(株)
	新清 晃	応用地質(株)
	筋野 晃司	(一財)河川情報センター
	高畑 栄治	国土交通省 水管理・国土保全局 治水課
	田端 幸輔	中央大学研究開発機構
	知花 武佳	東京大学大学院 工学系研究科
	椿 涼太	名古屋大学大学院 工学研究科
	仲吉 信人	東京理科大学 理工学部
	福島 雅紀	国土交通省 国土技術政策総合研究所
	岡安 徹也	(一財)国土技術研究センター
	宮本 健也	(公財)リバーフロント研究所
	堀江 克也	いであ(株)
	桑原 正人	パシフィックコンサルタンツ(株)
	本田 隆英	大成建設(株)
	松本 健作	群馬大学大学院 理工学府
	溝口 敦子	名城大学 理工学部
	原田 守啓	岐阜大学 流域圏科学研究センター
幹事	碓 正敬	(株)東京建設コンサルタント
幹事補助	越智 達郎	(株)東京建設コンサルタント
幹事補助	谷口 純一	(株)東京建設コンサルタント
事務局	林 淳二	(社)土木学会 事務局研究事業課



2019 年度 河川技術に関するシンポジウム—新しい河川整備・管理の理念と  
それを支援する河川技術に関するシンポジウム— プログラム

(6月12日～13日、東京大学農学部弥生講堂)

6月12日(水)	第1日目	開催場所
08:50-	受付 (ポスターセッション1 設営準備)	エントランスホール
09:50-10:00	開会の挨拶 (河川部会部会長 渡邊明英)	一条ホール
10:00-11:20	<u>ポスターセッション1 (PS1)</u>	*ポスター会場
11:30-12:30	<u>オーガナイズドポスターセッション1 (OPS1)</u> 「堤防の浸透破壊現象解明、危険箇所予測技術に果たす 現地調査、現地観測の役割」 企画・進行：堤防WG 諏訪・田端	一条ホール
12:30-13:30	昼食 (ポスターセッション2 設営準備)	
13:30-14:50	<u>ポスターセッション2 (PS2)</u>	*ポスター会場
15:00-15:10	河川技術論文賞 表彰式	一条ホール
15:10-17:10	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS1)</u> 「河川管理や河川計画のための水文・河川・海岸分野の 境界領域に関する河川技術」 オーガナイザー：渡邊明英	一条ホール
17:30-	交流会	交流会会場
6月13日(木)	第2日目	
08:30-	受付 (ポスターセッション3 設営準備)	エントランスホール
09:30-10:50	<u>ポスターセッション3 (PS3)</u>	*ポスター会場
11:00-12:00	<u>オーガナイズドポスターセッション2 (OPS2)</u> 「河川技術分野における数値解析の役割と今後の展望」 企画・進行：観測・解析WG 内田・島本・堀江	一条ホール
12:00-13:00	昼食 (ポスターセッション4 設営準備)	
13:00-14:20	<u>ポスターセッション4 (PS4)</u>	*ポスター会場
14:30-16:10	<u>特定課題オーガナイズドセッション (OS2)</u> 「大規模洪水時の水理現象把握と今後の研究の方向性」 オーガナイザー：田村浩敏	一条ホール
16:20-	閉会式 (河川部会副部会長 田村浩敏) ・優秀発表者賞の発表 ・閉会の挨拶	一条ホール

\*ポスター会場は、一条ホールエントランスホールとアネックスセイホクギャラリー

オーガナイズドセッション 1 (OS1)  
河川管理や河川計画のための水文・河川・海岸分野の  
境界領域に関する河川技術

オーガナイザー： 渡邊明英

進行： 椿涼太

山地から河口まで一体として河道を管理し、計画を立案する必要性があり、境界領域での技術の連続性の確保や何らかかの総合化などが必要と思われます。水文分野に関してはこれまでに何度かオーガナイズドセッションで行ってきたので、今回はまず砂防技術に焦点を当てたいと思います。

この 20 年ほどの間に河川技術は大きく進歩してきたと思います。しかしながら、気候変動の影響も示唆される豪雨が数多く発生し、土砂・流木流出災害は続いています。豪雨の特徴としてレーダー雨量計による線状降水帯の把握が重要視されるようになってきました。近年の山地や斜面の中規模土砂災害は広域で多発するような特徴が見られるようです。このような土砂の生産・流出イベントは、上流部山間地河川や中小河川への影響は非常に大きく、迅速な復旧が望まれます。また、これらのイベントで河道などへ一次的に堆積した土砂もその後の出水により流送され、時間的・空間的に分級・分散しながら下流へ運ばれるため、維持管理計画で検討が必要と思われます。

このような点も踏まえて、砂防分野から河川分野へ提供できる技術情報や河川技術者に伝えたいことの講演を頂きます。次いで、水文分野から豪雨発生リスクの評価に関して河川技術への利用に関する話題提供を頂きます。

全体討議では境界領域分野に関する双方向の情報共有や技術活用などの連携などを含めて河川技術としての方向性について議論したいと思います。

日時：2019 年 6 月 12 日（水）15:10-17:10

プログラム 進行：椿涼太

1) 15:10-15:25 主旨説明

- ・開催主旨
- ・課題・議論すべき対象
- ・本シンポジウムでの研究の動向

(株)東京建設コンサルタント 環境防災研究所 渡邊明英

2) 15:25-16:10 講演

[基調講演] 山地流域における土砂水理現象とこれらを解くための鍵

- ・豪雨に伴う山腹崩壊・土石流の発生と発達・減衰（堆積）過程
- ・流砂・河床変動を伴う洪水流
- ・遷移領域における河道設計の考え方

土木研究所 ICHARM 江頭進治

3) 16:10-16:30 砂防行政からの話題提供

- ・土砂・洪水氾濫の技術的な検討状況
- ・対策に向けた、技術基準策定等の取り組み状況
- ・今後の課題

国土交通省水管理・国土保全局 砂防部砂防計画課 國友優

4) 16:30-16:50 水文分野からの話題提供

- ・(仮)気候変動に伴う洪水外力の変化

北海道大学工学研究院 山田朋人

5) 16:50-17:10 全体討議

[登壇者]	江頭進治	土木研究所 ICHARM
	國友優	国土交通省水管理・国土保全局 砂防部砂防計画課
	山田朋人	北海道大学工学部
[オーガナイザー]	渡邊明英	(株)東京建設コンサルタント 環境防災研究所

オーガナイズドセッション2 (OS2)  
大規模洪水時の水理現象把握と今後の研究の方向性

オーガナイザー：田村浩敏

平成 27 年関東東北豪雨、平成 30 年西日本豪雨など、近年の大規模洪水時には多数の河川で洪水氾濫により多大な被害が毎年のように見られる。平成 30 年西日本豪雨では、支川の背水区間における破堤に至る、いわゆる「バックウォーター現象」がクローズアップされた。破堤要因には堤体や基礎地盤の条件のほか、外力となる河道水理条件も大きく影響を及ぼす。また、平成 28 年北海道東北豪雨や平成 29 年九州北部豪雨では河道内の土砂堆積等による洪水流への影響が大きく、今後の大規模洪水対策を考える上での課題となっている。このような近年発生した事象をもとに、実河川の観測データと水理解析による分析等を行い、洪水特性と破堤氾濫等の災害に至る現象を理解することが重要である。

本 OS では、近年全国各地で大規模洪水が発生していることを踏まえ、これらの水理的分析等の事例発表をもとに、河道水理特性の観点を中心に今後の研究や技術開発、河川整備の方向性について議論する。

日時：2019年6月13日（木） 14:30-16:10

プログラム

1) 14:30-14:40 主旨説明

株式会社建設技術研究所 田村浩敏

2) 14:40-15:40 講演

- ① （仮称）堤防決壊の事例をもとに考察した背水区間の堤防の決壊現象について

寒地土木研究所 前田俊一

- ② （仮称）平成29年九州北部豪雨を外力とした赤谷川流域の地表面流と洪水氾濫流のダイナミック解析

九州工業大学 重枝未玲

- ③ （仮称）狭窄部と盆地部が連続する千曲川における大規模洪水時の河道貯留・堤防破壊危険性の評価と今後の治水整備のあり方

中央大学研究開発機構 田端幸輔

- ④ （仮称）近年の水害を踏まえた河川整備の方向性～堤防強化の観点から～  
「近年の水害を受けての行政的な課題」

国土交通省 水管理・国土保全局 高畑栄治

「今後求められる堤防強化技術」

国土技術政策総合研究所 河川研究室 福島雅紀

3) 15:40-16:10 全体討議

[登壇者]	前田俊一	寒地土木研究所
	重枝未玲	九州工業大学
	田端幸輔	中央大学研究開発機構
	高畑栄治	国土交通省 水管理・国土保全局
	福島雅紀	国土技術政策総合研究所 河川研究室
[オーガナイザー]	田村浩敏	株式会社建設技術研究所

## オーガナイズドポスターセッション 1 (OPS1)

日 時 : 2019 年 6 月 12 日(水) 11:30~12:30  
テーマ : 堤防の浸透破壊現象解明、危険箇所予測技術に果たす現地調査、  
現地観測の役割  
企画・進行 : 堤防 WG 諏訪・田端

### ◆企画趣旨

河川堤防の浸透破壊については、モデル化した堤防及び基礎地盤模型を用いた実験と数値解析等による研究が進展してきた。堤防浸透の模型実験は、材料は実物を用いるが、施設の制約等から実際の堤防よりもスケールを小さくせざるを得ない限界がある一方、浸透破壊メカニズムを解明する立場からは、現地堤防の洪水時の応答は貴重な現地実験と捉えることができる。

このような視点から、本セッションでは、決壊までは生じていないものの浸透破壊の前兆あるいは途上と思われる変状が生じた現地の堤防における調査検討事例についての論文、堤体あるいは基礎地盤内の間隙水圧・浸潤線の現地における観測事例についての論文から話題提供して頂き、現地の堤防・基礎地盤の洪水に対する応答調査及び現地観測が堤防の浸透破壊メカニズム解明や危険箇所予測技術に果たす役割と今後の期待について会場及び話題提供者とディスカッションする。

◆プログラム

司会：国土技術政策総合研究所 諏訪義雄  
中央大学研究開発機構 田端幸輔

1) 11:30-11:35 趣旨説明

国土技術政策総合研究所 諏訪義雄

2) 11:35-12:00 話題提供

① 北川現地調査関係

- 北川で繰返し発生した陥没を伴う噴砂の詳細メカニズム調査
- 北川における漏水の変遷と地形及び堤防構造等の関係
- 北川で繰返し発生した噴砂による堤内・裏法尻箇所ゆるみ調査

国立研究開発法人土木研究所 石原雅規

② 物理探査による堤防内部の浸潤過程の可視化

応用地質株式会社 木佐貫寛

③ 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における鬼怒川上山川地区堤防と地下水動態について

利根川上流河川事務所 古河出張所（元 下館河川事務所） 青木裕

④ 旧河道の地下水分布と堤防周辺の基盤漏水発生箇所の関係

株式会社キタック 佐藤豊

3) 12:00-12:30 会場および話題提供者とのディスカッション

[登壇者]	石原雅規	国立研究開発法人土木研究所
	木佐貫寛	応用地質株式会社
	青木裕	利根川上流河川事務所 古河出張所（元 下館河川事務所）
	佐藤豊	株式会社キタック

## オーガナイズドポスターセッション 2 (OPS2)

日 時 : 2019 年 6 月 13 日(木) 11:00~12:00  
テーマ : 河川技術分野における数値解析の役割と今後の展望  
企画・進行 : 観測・解析 WG 内田・島本・堀江

### ◆企画趣旨

コンピュータ技術の急速な発展に伴い、河川技術分野における研究や実務の内容は大きく変わってきた。即ち、河川における流れや土砂輸送の複雑な方程式を数値的に解くことや、そのインプット、アウトプットデータの処理に留まらず、各種計測やビッグデータ解析など様々なところでコンピュータによる高速かつ膨大な演算・情報処理能力が活用されている。河川技術分野における数値解析の役割も多面的となっており、多くの技術者、研究者がそれぞれの立場で活用するようになっている。本 OPS では、まず数値解析の主たる目的である、流れや土砂の複雑な挙動解析の投稿論文の著者から、解析に関する最新の研究成果と現状の課題等について話題提供いただく。そして、話題提供者をパネラーとして迎え、著者の皆様からのアンケート結果などをもとに、会場と併せて意見交換を行い、開発者、ユーザーなど数値解析に様々な立場で関わってきた参加者間で、数値解析に期待される役割と今後の展望について共有する。

◆プログラム

1) 11:00-11:05 趣旨説明

広島大学 内田龍彦

2) 11:05-11:30 話題提供

- ① 改良された袋詰玉石工の洪水時の安定性評価技術の開発とこれを活用した袋詰玉石工の構造・配置の技術的検討

中央大学研究開発機構 福田朝生

- ② 二次元固定床模型実験及びそれを再現する数値解析モデルによる床止め工の圧力と流速等の考察

長岡技術科学大学 楊宏選

- ③ ダム洪水吐のゲートレス化に係わる放流特性の水理模型実験と三次元数値流体解析の比較検討

電力中央研究所 地球工学研究所 佐藤隆宏

- ④ 巨岩・巨石が点在する山地河川に対する平面二次元解析法の課題と新しい解析法の提案

中央大学研究開発機構 竹村吉晴

3) 11:30-12:00 パネルディスカッション

- 河川技術分野における数値解析の役割と今後の展望

[パネラー]

福田朝生

中央大学研究開発機構

楊宏選

長岡技術科学大学

佐藤隆宏

電力中央研究所 地球工学研究所

竹村吉晴

中央大学研究開発機構

[オーガナイザー]

堀江克也

いであ(株)

島本和仁

国土交通省 水管理・国土保全局

内田龍彦

広島大学

## ポスターセッション 1 (PS1)

日 時 : 2019 年 6 月 12 日 (水) 10:00~11:20

## 発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (10:00~10:40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (10:40~11:20)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS1 発表タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 堤防周辺地盤の局所的透水性変動に対する孔内水位変動の応答性に関する 感度検証 群馬大学 小太刀竣	堤防
2) 北川で繰返し発生した陥没を伴う噴砂の詳細メカニズム調査 愛媛大学大学院理工学研究科 岡村未対	堤防
3) 実堤防の調査結果に基づいた河川堤防のパイピング危険度の力学的点検フ ローの提案 名古屋工業大学大学院 西村柁哉	堤防
4) X線CTスキャンを活用した土の侵食抵抗試験に関する基礎的研究 北見工業大学博士前期課程 1 年 社会環境工学専攻 中陳実咲希	堤防
5) 植生の根茎を考慮した堤防天端からの排水集中による法面すべりに関する 模型実験 山口大学大学院創成科学研究科 中川翔太	堤防
6) 北川における漏水の変遷と地形及び堤防構造等の関係 土木研究所 石原雅規	堤防
7) 物理探査による堤防内部の浸潤過程の可視化 応用地質株式会社 木佐貫寛	堤防
8) 北川で繰返し発生した噴砂による堤内・裏法尻箇所のゆるみ調査 名古屋工業大学 前田健一	堤防
9) 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における鬼怒川上山川地区堤防と地下水動 態について 国土交通省関東地方整備局 (元) 下館河川事務所 計画課 青木裕	堤防

10) 浸透流解析を用いた簡易的なパイピング進行評価手法の堤防模型実験への適用性検討 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 田中秀岳	堤防
11) 河川堤防のパイピング発生時の水位上昇速度と基礎地盤表層の変形に関する模型実験 山口大学大学院創成科学研究科 足田彩華	堤防
12) 外来草本植物による積雪寒冷地の堤防法面植生の根系強度に関する考察 土木研究所寒地土木研究所 谷瀬敦	堤防
13) 動物の巣穴・掘り起こしに関する種ごとの特徴と影響度を考慮した河川堤防の点検・評価手法 公益財団法人河川財団 田島憲一	堤防
14) ウナギ用魚道の傾斜と突起物の間隔がウナギの遡上特性に及ぼす影響 九州工業大学大学院 窄友哉	河川環境・ 河川生態
15) 一級水系流域における魚類分布予測モデルの構築と多自然川づくり支援システムの開発 八千代エンジニアリング株式会社 九州支店 遠山貴之	河川環境・ 河川生態
16) 流れの異なる場のワンド整備効果と課題 公益財団法人 河川財団 近畿事務所 中西史尚	河川環境・ 河川生態
17) 利活用のポテンシャルが高い水辺拠点の評価手法の検討 国立研究開発法人土木研究所 水環境研究グループ河川生態チーム 鶴田舞	河川環境・ 河川生態
18) 梯川におけるネットワーク中心性分析を用いた景観・植物群落の遷移とその遷移に影響を与える物理環境特性に関する研究 国立研究開発法人土木研究所 傳田正利	河川環境・ 河川生態
19) 耳川の通砂事業により西郷ダム下流に形成した砂州の湧水特性 京都大学防災研究所 小林草平	河川環境・ 河川生態
20) バープエによって創出された微環境に応じた魚類群集 土木研究所 水環境グループ 自然共生研究センター 小野田幸生	河川環境・ 河川生態
21) 中小河川の中山間地から扇状地区間における河道平面形状による魚類生息場および種の特性の比較 (国研) 土木研究所 自然共生研究センター 大槻順朗	河川環境・ 河川生態
22) 豊平川のサケ産卵環境改善区間における掘削路閉塞後の環境変化計測 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 片岡朋子	河川環境・ 河川生態
23) サケ稚魚が利用する十勝川河口旧川跡およびワンド 国研) 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム 布川雅典	河川環境・ 河川生態
24) 汽水域及び河川下流域における環境DNAの空間分布把握とサンプリング法の検討 株式会社エコー 環境系事業部 河川・環境部 平田真二	河川環境・ 河川生態

25) 淀川の流量が天然海産アユ個体群に及ぼす影響 京都大学 博士後期課程 防災研究所水資源環境研究センター (株式会社建設技術研究所) 瀬口雄一	河川環境・ 河川生態
26) 環境 DNA 分析を用いたアユ産卵場の適切なモニタリング手法の構築～時 間的検討を中心に～ 山口大学大学院 創成科学研究科 (現 福岡工業大学 社会環境学部) 乾隆帝	河川環境・ 河川生態
27) 閉鎖性水域における水・底質調査による汚濁機構の解明及び水質改善対 策の提案—江戸城外濠を例にして— 中央大学理工学研究科都市環境学専攻 柿沼太貴	河川環境・ 河川生態
28) ヤナギ類を主体とした河道内樹木の伐採後の萌芽枝成長量の経年調査 株式会社エコニクス 田口敦史	維持管理
29) 阿賀川礫河原再生事業における中小洪水の重要性と事業効果 北陸地方整備局 松本砂防事務所 古瀬修	維持管理
30) 竹林の再繁茂を抑制する管理技術の検討 日本工営(株)大阪支店 基盤技術部 塩見真矢	維持管理
31) 札内川における礫州へのケショウヤナギ実生の侵入と保全管理に関する 検討 国土交通省北海道開発局建設部河川計画課 天羽淳	維持管理
32) MMS レーザを堤防点検に活用するための植生の影響に関する研究 (公財)河川財団 田中敬也	維持管理
33) AI を用いた河川管理実務の効率化・高度化に関する一考察 株式会社パスコ 中央事業部 技術センター 流域水管理部 河川技術課 小澤淳真	維持管理

## ポスターセッション 2 (PS2)

日 時： 2019 年 6 月 12 日 (水) 13:30~14:50

## 発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (13:30~14:10)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (14:10~14:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS2 発表タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 流域スケールでの流出流木量の推計モデルの構築 東北大学工学研究科・工学部 小森大輔	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
2) 平成 30 年北海道胆振東部地震において発生した斜面崩壊の特徴 国研) 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム 村上泰啓	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
3) 流木捕捉工の効率化に関する水理模型実験 東京建設コンサルタント 九州支社環境防災部 高崎秀一	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
4) 河川流量データで降雨流出の地域特性を反映した土砂災害警戒避難基準雨量 株式会社エイト日本技術開発 只熊典子	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
5) 14C 年代測定による深層崩壊発生頻度推定手法の検討と適用 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター 田中健貴	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
6) 土石流危険度予測のための源頭部における豪雨時の雨水浸透過程に関する研究 中電技術コンサルタント株式会社 小橋力也	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
7) 流域特性を考慮した流木対策の提案 三井共同建設コンサルタント株式会社 原田紹臣	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
8) 2018 年 7 月広島県坂町総頭川で発生した流木を伴った土石流の特性 西日本技術開発(株) 土木本部水工部 福岡尚樹	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理

9) 地質境界が存在する斜面での地質構造や水文特性に着目した表層崩壊危険度評価手法の提案 和歌山県土砂災害啓発センター 榎原伴樹	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
10) 干渉 SAR 解析による崩壊危険斜面抽出手法とその適用範囲について 和歌山県土砂災害啓発センター 崎山朋紀	砂防・斜面崩壊・流木と土砂の管理
11) 山地急流河川における川幅と河岸粗度が河床安定に及ぼす影響 岐阜大学流域圏科学研究センター 原田守啓	土砂の水理・河床変動
12) 土石流の支配方程式を用いた天然ダムの形成過程 国立研究開発法人土木研究所 山崎祐介	土砂の水理・河床変動
13) ダム流域における流砂・河床変動の評価法に関する研究 国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) 原田大輔	土砂の水理・河床変動
14) 河床の力学的平衡状態に基づく樹林化回避地形の推定 新潟大学大学院自然科学研究科 石原道秀	土砂の水理・河床変動
15) データマイニングを用いた安倍川流砂系の土砂動態把握 株式会社建設技術研究所中部支社 五島暢太	土砂の水理・河床変動
16) 大規模洪水時における河岸侵食危険箇所の検出法 工学部第四類社会基盤環境工学課程 八木郁哉	土砂の水理・河床変動
17) 四万十川と後川合流部における土砂堆積軽減策に関する研究 高知工業高等専門学校 吉川和宏	土砂の水理・河床変動
18) 現地河川における IC タグ技術を用いた置き土追跡調査と数値解析による土砂移動状況の再現計算 株式会社 開発工営社 濱木道大	土砂の水理・河床変動
19) 複雑な形を有する石礫河道の粒度分布と代表粒径の決め方およびその決定法が有する移動床水理上の意義 中央大学大学院 熱海孝寿	土砂の水理・河床変動
20) 管径 100mm 潜行吸引式排砂管における土砂濃度計測と吸引排砂特性 (国研) 土木研究所水工研究グループ水理チーム 宮川仁	土砂の水理・河床変動
21) 河床低下が進行した碓氷川における軟岩河床の河道特性に関する検討 パシフィックコンサルタンツ (株) 国土基盤事業本部 河川部 徐冰潔	土砂の水理・河床変動
22) 信頼区間・予測区間を導入した水文頻度解析における不確実性評価 中央大学 理工学研究科 清水啓太	洪水リスク・リスク管理
23) 洪水による農業被害に伴う波及被害額の算定手法の検討 国土交通省北海道開発局建設部 小林彩佳	洪水リスク・リスク管理
24) 米英蘭仏の事例を踏まえた洪水対策分野の気候変動適応策に関する考察 国土交通省 国土技術政策総合研究所 板垣修	洪水リスク・リスク管理

<p>25) 航空レーザ測量データを活用した中小河川における簡易的な水害リスク情報作成手法の提案 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川情報企画室 大山璃久</p>	<p>洪水リスク・ リスク管理</p>
<p>26) 地先のハザードカーブに基づいた流域の地理的構造化とその自然的・社会的要因の分析 京都大学防災研究所 日本学術振興会特別研究員 PD 山田真史</p>	<p>洪水リスク・ リスク管理</p>
<p>27) 大規模洪水時における内外水同時解析モデルを用いた時空間的な浸水リスク評価 (株)建設技術研究所北海道支社河川室 米田駿星</p>	<p>洪水リスク・ リスク管理</p>
<p>28) オランダの治水分野における気候変動適応策の検討・実施状況に関する調査報告(第2報) 一般財団法人北海道河川財団 千葉学</p>	<p>洪水リスク・ リスク管理</p>
<p>29) 実河川流域における大量アンサンブル気候予測データに基づく将来気候下での降雨の時空間分布について 株式会社ドーコン 舛屋繁和</p>	<p>洪水リスク・ リスク管理</p>
<p>30) 流路の平面形状が砂州固定化および樹木繁茂に与える影響 新潟大学大学院自然科学研究科 吉武央気</p>	<p>維持管理</p>

## ポスターセッション 3 (PS3)

日 時 : 2019 年 6 月 13 日 (木) 9:30~10:50

## 発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (9:30~10:10)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (10:10~10:50)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS3 発表タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 那賀川長距離区間を対象とした簡易平面二次元解析法の実用性の検証 国立高専機構阿南高専 長田健吾	水理現象・ 水理解析
2) 蛇行水路における段波の伝播特性に関する実験的研究 広島大学大学院工学研究科 小林大祐	水理現象・ 水理解析
3) 市川の歴史的河川施設機能を考慮した河川整備 八千代エンジニアリング株式会社事業統括本部 保坂幸一	水理現象・ 水理解析
4) 平成 28 年 8 月北海道豪雨災害における流路内の流木集積状況と水理的 条件に関する検討 愛知工業大学 赤堀良介	水理現象・ 水理解析
5) 巨岩・巨石が点在する山地河川に対する平面二次元解析法の課題と新しい 解析法の提案 中央大学研究開発機構 竹村吉晴	水理現象・ 水理解析
6) 気候変動と堆砂進行がダムの利水機能に及ぼす影響に関する検討 株式会社建設技術研究所 東京本社 小島裕之	ダムの計画と 管理
7) 深層強化学習を用いたダム操作モデルによる洪水調節 日本工営株式会社 石尾将大	ダムの計画と 管理
8) 河道外貯留ダムが河川の土砂連続性に及ぼす影響 京都大学工学部地球工学科土木工学コース 石塚淳也	ダムの計画と 管理
9) ダム洪水吐のゲートレス化に係わる放流特性の水理模型実験と三次元 数値流体解析の比較検討 電力中央研究所 地球工学研究所 流体科学領域 佐藤隆宏	ダムの計画と 管理
10) 移動床水理模型実験と粒子法による河床低下に伴う床止めの破壊現象 の把握 群馬大学大学院 理工学府理工学専攻 樋口敬芳	河川構造物

11) 空石積み護岸の積み石の引き抜き耐力の評価と設計手法 九州大学大学院工学府 竹内えり子	河川構造物
12) 二次元固定床模型実験及びそれを再現する数値解析モデルによる床止め工の圧力と流速等の考察 長岡技術科学大学 楊宏選	河川構造物
13) 下流河床の低下に伴う床止めの破壊の過程のフォルトツリー構築の試み パシフィックコンサルタンツ（株） 北野和徳	河川構造物
14) 改良された袋詰玉石工の洪水時の安定性評価技術の開発とこれを活用した袋詰玉石工の構造・配置の技術的検討 中央大学研究開発機構 福田朝生	河川構造物
15) 流体力による護床エブロックの破壊限界に関する実験的検討 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 山本陽子	河川構造物
16) 大規模洪水時における UAV を用いたエアリアル STIV 法による流量観測の検証 株式会社 福田水文センター 橋場雅弘	観測技術・計測技術
17) フローセル型超音波減衰スペクトル計による洪水時の粒径区分別土砂輸送量の連続観測 日本大学工学部 古川仁志	観測技術・計測技術
18) 中小河川を対象とした UAV 写真測量を用いた 流下能力評価手法に関する研究 株式会社復建技術コンサルタント 市川健	観測技術・計測技術
19) 複合劣化が生じた河川コンクリート構造物に対する河水衝突外力の計測 土木研究所寒地土木研究所 横山洋	観測技術・計測技術
20) セグメント3領域における ALB 欠測領域の河床位推定手法の構築 株式会社建設技術研究所 山崎崇徳	観測技術・計測技術
21) 供給される土砂の粒径と濁水の色の違いに着目した土砂移動現象を検知する画像認識技術の検討 日本工営株式会社 国土保全事業部 砂防部 五十嵐和秀	観測技術・計測技術
22) 人工衛星画像から作成した無雪期及び積雪期の標高モデルから求めた山間部の積雪分布の精度検証 土木研究所 寒地土木研究所 西原照雅	観測技術・計測技術
23) 衛星画像と UAV 空撮画像を併用した機械学習による河川地被分類手法の検討 株式会社建設技術研究所 東京本社河川部 佐藤拓也	観測技術・計測技術

24) UAV 牽引型小型超音波測深機のダム貯水池地形計測への適用と精度評価 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所 田内敬祐	観測技術・ 計測技術
25) 画像を利用した水文観測を実施する際の実務上の課題と対応策 名古屋大学 椿涼太	観測技術・ 計測技術
26) カメラ同期制御装置を用いた近接写真測量による水面形状の計測 (株)安田測量 安田晃昭	観測技術・ 計測技術
27) UAV 搭載型電波式流速・水位計を用いた流量推定手法の提案 国立研究開発法人 土木研究所 小関博司	観測技術・ 計測技術
28) 実河川での ADCP と MBES による河床波 と掃流砂観測 株式会社 福田水文センター 土田宏一	観測技術・ 計測技術
29) ADCP 係留ボートの構造が流速プロファイルに与える影響評価 富山県立大学大学院 新井章珣	観測技術・ 計測技術
30) RTK-GNSS 搭載型 UAV による複数天底角・複数高度撮影に基づく標 定点を用いない河道写真測量 国立研究開発法人 港湾空港技術研究所海洋環境情報研究グループ 小室隆	観測技術・ 計測技術
31) UAV 写真測量を用いた河道内樹木の管理方法について 株式会社パスコ 中央事業部 本田禎人	維持管理

## ポスターセッション 4 (PS4)

日 時 : 2019 年 6 月 13 日 (木) 13:00~14:20

## 発表方法に関する注意事項

以下に示す時間帯は、必ずポスターの説明を行ってください。それ以外の時間については、ご自身のポスターを説明されるか、他の発表者との意見交換に活用されるかを自由に選択することができます。

- ・ 奇数番号の論文等発表者・・・前半 40 分 (13:00~13:40)
- ・ 偶数番号の論文等発表者・・・後半 40 分 (13:40~14:20)

発表論文等タイトルに付けられた番号は、ポスター掲示用パネル番号と対応しています。

PS4 発表タイトル及び発表者所属・氏名	論文集 目次分類
1) 都市流域を対象とした雨水管路網の理論データ構築手法の開発 首都大学東京 都市基盤環境学科 天口英雄	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
2) 米代川の融雪期における洪水と融雪量推定の高標高観測値の効果 三井共同建設コンサルタント株式会社 黒澤祥一	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
3) 分布型流出モデルの誤差構造分析と多地点水位データ同化手法 京都大学防災研究所 佐山敬洋	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
4) 平成 28 年台風第 10 号による二級河川小本川での洪水流量形成における先行降雨の影響 株式会社 建設技術研究所 高橋範仁	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
5) 畳み込みニューラルネットワークによるレーダ雨量を用いた河川水位予測 日本工営株式会社 荒木健	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
6) 長時間水位予測への深層学習の適用ー学習～検証過程の一般化に向けてー 株式会社建設技術研究所大阪本社 守谷将史	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
7) 水位を境界条件とした洪水氾濫解析による洪水流量と浸水域の推定 ～平成 29 年 7 月九州北部豪雨時の花月川下流域を対象にして～ 九州工業大学大学院 工学府建設社会工学専攻博士前期過程 桂佑樹	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
8) Recurrent Neural Network によるダム流入量の予測 株式会社東京建設コンサルタント環境防災研究所 谷口純一	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
9) 2018 年西日本豪雨における小田川の洪水氾濫プロセス 日本工営 篠原麻太郎	洪水氾濫予測 ・ 氾濫解析
10) 2016 年 8 月豪雨における常呂川支川の破堤機構の解明 北見工業大学 社会環境工学科 深澤アダム翔	堤防

11) 狭窄部と盆地部が連続する千曲川における大規模洪水流下時の河道貯留・堤防浸透破壊危険性の評価と今後の治水整備のあり方 中央大学研究開発機構 田端幸輔	堤防
12) 河道形状が堤防決壊拡幅現象に与える影響 寒地土木研究所寒地河川チーム 島田友典	堤防
13) 河道の保守点検のための河道脆弱区間の水理的推定法の提案 新潟大学災害・復興科学研究所 五十嵐拓実	維持管理
14) 降雨強度の増大に適応した既存調整池の放流能力拡大による治水機能向上効果の分析 東京大学大学院工学系研究科 中嶋一貴	水災害・ 水防災・ 減災・避難
15) 平成 30 年 7 月豪雨による肱川の氾濫と保育所での避難行動分析 徳島大学 中野晋	水災害・ 水防災・ 減災・避難
16) 側溝・用水路での水難事故の発生危険性の増大に関する実験的研究 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 岡本隆明	水災害・ 水防災・ 減災・避難
17) 中小河川群の氾濫水理解析に基づく地域防災力向上戦略の検討 滋賀県立大学環境科学部 瀧健太郎	水災害・ 水防災・ 減災・避難
18) 平成 30 年 7 月豪雨による北海道北部・東部における河川構造物の被災調査 北見工業大学 川尻峻三	水災害・ 水防災・ 減災・避難
19) 嶮淵川におけるアイスジャムと河道狭窄の影響に関して 国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 伊波友生	水災害・ 水防災・ 減災・避難
20) 深層学習による降雨予測の時空間方向へのダウンスケーリング手法の開発 一般財団法人日本気象協会 関西支社 防災ソリューション事業課 山本雅也	水災害・ 水防災・ 減災・避難
21) レーザ測量データを用いた霞堤における遊水機能の実態把握と治水効果の検証 株式会社 建設技術研究所 大阪本社 河川部 橋本将明	水災害・ 水防災・ 減災・避難
22) 橋脚部におけるアイスジャム実験と再現計算 北見工業大学 地域未来デザイン工学科 吉川泰弘	水災害・ 水防災・ 減災・避難
23) ディープラーニングによる新しい降水予測手法の検討 東京理科大学理工学研究科土木工学専攻 金子凌	水災害・ 水防災・ 減災・避難

24) 河川合流点での水位・流量ピーク時刻の集中を支配する降雨および流域特性の分析と集水域間の比較－荒川水系入間川流域を対象として－ 埼玉大学 大学院理工学研究科 末永博	水災害・ 水防災・ 減災・避難
25) 高知県安芸市における平成 30 年 7 月豪雨時の浸水被害, 住民の防災 情報活用と避難行動の実態調査 高知工業高等専門学校 岡田将治	水災害・ 水防災・ 減災・避難
26) 「的確な住民避難のための情報」に関する住民アンケート分析 一般財団法人河川情報センター 河川情報研究所 本多隆範	水災害・ 水防災・ 減災・避難
27) メソアンサンブル気象計算に基づく平成 29 年 7 月九州北部豪雨のメ カニズム調査, およびトリガーとなる気象擾乱の検知 東京理科大学土木工学科 仲吉信人	水災害・ 水防災・ 減災・避難
28) 水防活動実態の把握及び避難誘導に着目した水防活動支援技術の提案 国土技術政策総合研究所河川研究部水害研究室 武内慶了	水災害・ 水防災・ 減災・避難
29) 観測流量データを用いた多変量自己回帰モデルの適用による河川流量 の逆推定に関する研究 中央大学理工学研究科 小山直紀	水災害・ 水防災・ 減災・避難
30) 濃尾平野における扇状地河川からの地下水涵養量とそれに及ぼすダム 補給量の効果 岐阜大学 大学院自然科学技術研究科 桑山浩幸	水循環
31) 小流域河川の地下水・表流水間の相互作用を考慮した水循環解析 -大 原川を事例として- (株) 東京建設コンサルタント 九州支社 松本大毅	水循環
32) 堤防刈草ペレットを地域資源とする循環型社会の仕組みづくりへの取 り組み (公財) 河川財団 山本嘉昭	維持管理
33) 堤防を対象とした植物成長調整剤・除草剤の 2 年目使用の効果と植生 管理法への反映 公益財団法人 河川財団 河川総合研究所 青山治彦	維持管理

# 基礎水理部会 活動報告

2019年度第1回土木学会水工学委員会

2019年6月7日

土木学会AB会議室

基礎水理部会WebサイトURL

<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/index.html>

# 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 委員構成 (1)

[委員] 25名 [アドバイザー] 11名 2019.06.01現在

[部会長] 杉原 裕司 九州大学 大学院総合理工学研究院 環境理工学部門

[副部会長] 田中 規夫 埼玉大学 大学院理工学研究科 環境システム工学専攻

[幹事] 山上 路生 京都大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻

## [委員]

赤穂 良輔	岡山大学	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻
泉 典洋	北海道大学	工学研究科 環境フィールド工学専攻
井上 卓也	土木研究所	寒地土木研究所
岩崎 理樹	北海道大学	大学院工学研究科
鶴崎 賢一	群馬大学	理工学府 環境創生部門
内田 龍彦	広島大学	大学院工学研究科 社会基盤環境工学
岡本 隆明	京都大学	大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
鬼束 幸樹	九州工業大学	工学部 建設社会工学科
音田 慎一郎	京都大学	工学研究科 都市社会工学専攻
門田 章宏	愛媛大学	工学研究科 生産環境工学専攻
高岡 広樹	八千代エンジニアリング	九州支店
高橋 正行	日本大学	理工学部 土木工学科
高濱 淳一郎	京都府立大学	生命環境学部 森林科学科
張 浩	高知大学	教育研究部 自然科学系
椿 涼太	名古屋大学	大学院工学研究科 土木工学専攻
永野 博之	群馬高専	環境都市工学科
原田 守啓	岐阜大学	流域圏科学研究センター
久末 信幸	関西電力	技術研究所
平松 裕基	早稲田大学	理工学術院総合研究所
溝口 敦子	名城大学	理工学部 社会基盤デザイン工学科
横嶋 哲	静岡大学	学術院工学領域 数理システム工学系列
吉田 圭介	岡山大学	環境生命科学研究科

## 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 委員構成（２）

（50音順, 敬称略） 2019.06.01現在

### [アドバイザー]

朝位 孝二	山口大学	大学院創成科学研究科
大本 照憲	熊本大学	自然科学研究科 社会環境工学専攻
神田 佳一	明石工業高専	都市システム工学科
木村 一郎	富山大学	都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科
里深 好文	立命館大学	理工学部 環境都市工学科
関根 正人	早稲田大学	創造理工学部 社会環境工学科
富永 晃宏	名古屋工業大学	工学研究科 社会工学専攻
仲座 栄三	琉球大学	工学部 工学科 社会基盤デザインコース
羽田野 袈裟義	九州産業大学	建築都市工学部 都市基盤デザイン工学科
藤田 一郎	神戸大学	工学研究科 市民工学専攻
前野 詩朗	岡山大学	環境生命科学研究科

# 「第24回水シンポジウム2019 in しが」第1分科会について

〔担当：土木学会水工学委員会〕

## 1. 方向性：

近年頻発する洪水被害を踏まえ、水防法が改正され、国土交通省では「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画が策定され、「大規模氾濫減災協議会」の設置、水害タイムラインの作成等の取り組みが進められている。また、滋賀県では、平成25年度に「滋賀県流域治水の推進に関する条例」を策定し、水害に強い地域づくりの実現を目指している。施設だけでは防ぎきれない洪水の発生に備え、ハード・ソフトが一体となった、これからの治水対策のあり方について、流域治水先進県である滋賀から全国へ向けて発信する。

## 2. テーマ：「滋賀から発信するしなやかで強靱な流域治水のあり方」

（主旨）近年の気象現象、豪雨の発生状況等について理解を深め、“水の威力”からの減災を図るために、行政、研究者、自主防災組織、地域住民などのそれぞれの立場から水害に強い地域づくりに向けた方策を探る。命を守ることを第一とする視点を共有し、優れた地域防災力を有する”しなやかで強靱な”流域治水のあり方について議論・提言する。

## 3. 登壇者：コーディネータ 土木学会水工学委員会基礎水理部会長 九州大学 教授 杉原裕司氏

パネリスト (1)学識者

滋賀県立大学 准教授 瀧健太郎氏 (流域政策・計画)

立命館大学 教授 里深好文氏 (河川工学)

日本大学理工学部 教授 大沢昌玄氏 (都市計画・立地適正化)

(2)行政職員

米原市都市計画課 村口智一氏 (入江干拓 建築基準)

滋賀県土木交通部流域政策局長 岸田孝史氏 (河川管理者)

(3)地域代表

NHK大津放送局アナウンサー 大山武人氏 (報道)

日経コンストラクション副編集長 真鍋政彦氏 (2010～流域治水を取材)

東近江市葛巻区 前防災部会長 安田清明氏 (水害に強い地域づくり取組地域)

# 2019年度 基礎水理部会 河川見学会

幹事：山上 路生

①場所：富山県黒部市および富山市（黒部川、常願寺川、神通川）

②日時：10/27（日）-29（火）

③スケジュール案

**10/27（日）**：夕方現地集合（黒部市）

- ・夕方 ホテル会議室にて、定例部会開催

**10/28（月）**：黒部川河川事務所担当

- ・午前～午後 **黒部川見学（宇奈月ダム～河口・海岸域）** /事務所意見交換会
- ・夕方、富山市へ電車で移動
- ・富山駅前ホテル泊

**10/29（火）**：富山国道河川事務所担当

- ・午前 **常願寺川・神通川見学**
- ・現地解散

# 基礎水理ワークショップin 2019

主催：公益財団法人土木学会水工学委員会基礎水理部会

日時：2019年4月1日(月) 13:00～17:40

場所：公益社団法人土木学会2階A会議室

参加費：無料

**趣旨説明：**この度、水工学委員会基礎水理部会では、新たな試みとして、基礎水理分野をリードされてきたシニアの先生にご自身のこれまでの研究について概観して頂き、いまだ未解明と思われる水理現象や研究対象について話題提供して頂くことを通じて、ともすれば現象の本質から目を反らし、ただ漠然と研究しているだけになっているかもしれない中堅以下の水理研究者・技術者を刺激して頂くことを意図したワークショップを企画致しました。とは言え、あまり形式張ったものではなく、自由で闊達な雰囲気の中で、通常の学会では発表が難しい途上問題を含めて、水理学的問題の本質の理解を共有・深化させる機会になることを期待しています。年度始めで、また直前でのご案内になりますが、多くの皆様に奮ってご参加頂けると幸いです。

## プログラム

13:00－13:05 開会挨拶 基礎水理部会部会長 木村一郎

13:05－14:50 実験水理と乱流に関する話題提供 富永晃宏先生（名古屋工業大学教授）

14:50－15:00 休憩

15:00－16:45 土砂水理に関する話題提供 大本照憲先生（熊本大学教授）

16:45－16:50 総括

16:50－17:00 休憩

17:00－17:40 基礎水理部会（WSに引き続き、基礎水理部会関係者による会合を持ちます）

参加人数：7名

# 基礎水理部会ワーキング・グループ

- 流木力学に関するWG（代表：木村 一郎）
- 流砂・河床変動に関する若手WG（代表：音田 慎一郎）
- 生態水理に関するWG（代表：田中 規夫）
- 河川構造物等に作用する流体力と流れに関するWG  
（代表：田中 規夫）
- 数値解析支援ツールに関するWG（代表：井上 卓也）

# 流木力学に関するWG

富山大学 木村一郎

## キックオフ研究会 テーマ「急流河川の流木動態」

**日時**：2019年6月4（火），5日（水）

**場所**：富山大学都市デザイン学部，黒部川

### 内容

#### 6月4日（火曜）ワークショップ

**場所**：富山大学都市・交通デザイン学科会議室

**時間**：14：00－17：00

**話題提供1**（14：00－15：30）：

**京都大学工学研究科 岡本隆明 助教**

「流木の橋梁による捕捉過程の力学機構」

**話題提供2**（15：30－17：00）：

**富山県立大学 手計太一 准教授**

「黒部川における流木動態の現地観測」

#### 6月5日（水）見学会 黒部川 相本堰堤から河口まで

**協力**：国土交通省北陸地整 黒部川河川事務所 行程は次ページ

### 参加予定者

富山県立大学	手計太一	准教授	京都大学	岡本隆明	助教
京都大学	音田慎一郎	准教授	京都大学	カン・テウン	研究員
名城大学	溝口敦子	教授	富山大学	酒井英男	名誉教授
富山大学	曾我宜之	技術員	富山大学	木村一郎	



富山大学五福キャンパス

# 流木力学WG見学会

日時：2019年6月5日（水曜日）

場所：黒部川，愛本堰堤（扇状地上流から

協力：国土交通省北陸地方整備局黒部川河川事務所

案内：古山副所長様，飯田黒部川出張所長様

行程：8:30富山駅出発 レンタカーで北陸自動車道黒部インター  
以下，下の行程表



扇頂 愛本堰堤

## 【行程】

- |               |   |             |
|---------------|---|-------------|
| 黒部 I C        | : | 9:30        |
| ★ ①左岸15.2k    | : | 9:45～ 9:55  |
| ②愛本堰堤魚道       | : | 10:00～10:15 |
| ★ ③巨石付盛土砂州    | : | 10:20～10:30 |
| ④縦工 (L9.8k)   | : | 10:35～10:45 |
| ☆ ⑤左岸 8.6k    | : | 10:50～11:00 |
| ⑥霞堤 (L6.8k)   | : | 11:05～11:15 |
| ★ ⑦水制 (R3.2k) | : | 11:25～11:35 |
| ★ ⑧右岸河口       | : | 11:45～12:00 |

<凡例>

★：流木堆積が多かった箇所

☆：流木集積箇所



# 流砂・河床変動に関する若手WG

## ・第4回流砂・河床変動若手勉強会

日時：2019年3月11日(月), 12日(火)

場所：岐阜大学サテライトキャンパス

自然共生研究センター, 水辺共生体験館

テーマ：流砂研究と現場の架け橋

講演者：山本太郎(北海道河川財団),

吉田圭介(岡山大学), 原田大輔(土木研究所ICHARM),

原田守啓(岐阜大学), 田代喬(名古屋大学),

大槻順朗(土木研究所自然共生研究センター)

参加人数：15名

- **第5回流砂・河床変動若手勉強会**

日時, 場所：2019年8月末, 札幌にて開催予定

テーマ：砂州

- **ホームページ**

<http://sediment.stars.ne.jp/blog/>

# 数値解析支援ツールに関するWG

## 今年度の講習会の予定

### iRIC ver3.0 講習会 in 大阪

日時：2019年6月26日（水）～6月28日（金）

場所：梅田B1Fレンタルスペース貸会議室

（大阪市北区堂山町1-5 三共梅田ビル B1F ）

対象ソルバと講義：

- iRIC紹介
- 2次元流れ河床変動ソルバNays2DH
- 土石流・泥流解析ソルバMorpho2DH
- 2次元氾濫解析ソルバNays2DFlood
- 生息場評価ソルバEvaTRiP
- 河道地形編集ツールRiTER

世界中の河川を解析できる。

石狩川からナイル川までシミュレーションできるソフト。  
河川流れ・河床変動計算、氾濫計算が変わる。  
わかる！できる！みえる！



## iRIC ver3.0 講習会 in 大阪

2019年6月26日（水）～6月28日（金）

場所：梅田B1Fレンタルスペース貸会議室  
（大阪市北区堂山町1-5 三共梅田ビル B1F ）

共催：摂南大学理工学部都市環境工学科、大阪工業大学工学部都市デザイン工学科、iRIC研究会

協賛：一般財団法人 北海道河川財団、iRIC-UC

対象ソルバと講義：

- iRIC紹介
- 2次元流れ河床変動ソルバNays2DH
- 土石流・泥流解析ソルバMorpho2DH
- 2次元氾濫解析ソルバNays2DFlood
- 生息場評価ソルバEvaTRiP
- 河道地形編集ツールRiTER

現地見学：淀川

定員：45名（一般35名程度、学生10名程度）

受講料：一般30,000円、学生15,000円、iRIC-UC会員25,000円

資料は各自印刷頂くこととします。印刷資料は有料（上記に+3,000円）

レベル：初級～中級

CPD単位数：（社）土木学会の継続教育制度（CPD）の単位を申請予定

### プログラム

2019年6月26日（水）	2019年6月27日（木）
10:00 主催者のあいさつ（摂南大学 石田裕子）	8:55 講習の流れ（事務局）
10:10 講習の流れ（事務局）	9:00 Morpho2DH（京都大学 竹林洋史）
10:15 iRICについて（清水康行）	11:30 昼食
10:45 iRICの基本操作（旭一岳）	13:00 現地見学（淀川城北わんどなど）
11:45 昼食	17:00 終了（大阪駅着）
13:00 Nays2DH 1(北海道大学 久加朋子)	19:00 懇親会
15:00 休憩	
15:15 Nays2DH 2(寒地土木研究所 井上卓也)	2019年6月28日（金）
17:00 終了	8:55 講習の流れ（事務局）
	9:00 EvaTRiP, RiTER（土木研究所 大槻順朗）
	11:00 昼食
	12:00 Nays2DFlood（寒地土木研究所 岩崎理樹）
	13:30 休憩
	13:45 Nays2DFlood（寒地土木研究所 岩崎理樹）
	15:15 質疑応答
	16:00 閉会のあいさつ（北海道大学 清水康行）

お申込みはサイトはただいま準備中です。  
5月10日ぐらいから募集開始予定です。

# 2018年度後期に実施した講習会

## 1. 小さな自然再生サミット2019 神戸～iRICで学ぶ 川の流れ(初級)

開催日 平成31年1月27日  
主催 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局、(公財)リバーフロント研究所  
開催場所 デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)  
講師 久加朋子(北海道大学)  
参加者 25名  
内容 iRICの基礎的な動作と、Nays2DHを利用した河川の流れを計算の練習

## 2. 第3回岐阜県自然共生川づくり勉強会

開催日 平成31年2月25日  
主催 岐阜県  
開催場所 OKBふれあい会館第2棟6階OA研修室  
講師 国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター研究員2名  
参加者 15名  
内容 河川解析ソフト「iRIC」による勉強会

## 3. iRIC講習会

開催日 平成31年3月5日～7日  
主催 京都大学・Hydrolabの共同研究の一環  
開催場所 ネパール・カトマンズのHydrolab  
講師 竹林洋史(京都大学)  
参加者 7名  
内容 iRICの基礎的な動作と計算の練習

# 環境水理部会報告

新執行部 部会長: 矢野(九大) 副部会長: 竹林(京大)  
幹事: 大槻(土研), 新谷(首都大)

## WG活動:

- ・閉鎖性水域研究WG(矢野(島根大))→終了予定
- ・温暖化適応WG(矢野)→第2フェーズへ(主査: 入江(阪大)に交代. d4/2PDFの利活用など)
- ・流砂・植生動的マネジメントWG(竹林)→次頁
- ・「環境水理学」テキスト英訳(矢野)→残が第6章のみ. 終了後, 内容確認して公開予定.

## 研究集会2019 in岩木川:

### 1. 日時

現地見学会その1, 懇親会: 2019(令和元)年6月20日(木)

研究発表会: 同 6月21日(金)

現地見学会その2: 同 6月22日(土)

### 2. 開催場所

現地見学会その1: 岩木川流域 十三湖, 水戸口(河口), 岩木川下流・ヨシ原 など

懇親会・研究発表会: アソベの森 いわき荘 (青森県弘前市)

現地見学会その2: 道の駅津軽白神, 津軽ダム

# 流砂・植生動的マネジメントWG

WG主査 竹林洋史(京都大学)

## 2018年度活動報告

・ 四万十川・仁淀川見学

2019年2月27日 仁淀川下流

治水及びハビタット形成を考慮した河道掘削箇所の視察

2019年2月28日 四万十川下流

入田箇所アユの瀬づくり、山路箇所スジアオノリの再生

## 2019年度活動計画

- ・ 現地見学
- ・ 土砂動態管理と植生動態との関係に関する研究会



# 水害対策小委員会

水工学委員会における水害調査活動の円滑化および水害研究の更なる発展のための活動を行う小委員会

## 【活動内容】

- ・水害発生時に、水工学委員会が速やかに調査団を組織するためのサポート、調査団員公募のサポート、調査費獲得のためのサポート等をする。
- ・水害発生時に、他部門及び他学会との合同調査団の結成や河川管理者（行政機関）との窓口となる。
- ・水害発生時の水工学委員会としての対応・調査マニュアルを作成する。
- ・自然災害研究協議会と協力し、河川災害シンポジウムを企画・運営する。
- ・消防及びレスキューと情報交換を行い、水工学知見に基づいたレスキューマニュアルの改善やレスキュー技術の向上に努める。
- ・国土交通省及び地方自治体の水害対策部署と情報交換及び勉強会を行い、水防技術の向上に努める。
- ・水工学委員会に講演依頼がある水害に関する講演及び教育活動の窓口となる

# 2019年 度委員会 メンバー

委員	氏名	所属
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小委員会委員長</li> <li>・幹事(各支部から1名)</li> </ul>	田中 茂信 川村 里実 川越 清樹 二瓶 泰雄 田代 喬 佐山 敬洋 岡田 将治 赤松 良久 矢野 真一郎	京都大学 寒地土木研究所 福島大学 東京理科大学 名古屋大学 京都大学 高知工業高等専門学校 山口大学 九州大学
(幹事長兼務)	吉田 邦伸	国交省 水管理・国土保全局防災課災害対策室長
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省本省</li> <li>・国土交通省テックフォース</li> <li>・国の研究所</li> </ul>	豊口 佳之 宮本 守 佐々木 隆	国交省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室長 ICHARM 国総研 河川研究部 河川構造物管理研究官
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサルタント</li> </ul>	菊地 博文 本橋 健 眞間 修一	(株)ドーコン 日水コン 八千代エンジニアリング
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団</li> <li>・前水工学委員会委員長</li> <li>・監事</li> <li>・監事</li> </ul>	徳永 良雄 中北 英一 堀 智晴 竹林 洋史	一般社団法人 国際建設技術協会 京都大学 京都大学 京都大学
オブザーバー		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防</li> </ul>	上村 昇 木下 修	消防庁国民保護・防災部 東京消防庁警防部特殊災害課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レスキュー</li> <li>・各支部調査団組織責任者 (各支部カ)</li> </ul>	佐藤 孝洋 泉 典洋 田 中仁 清水 義彦 富永 晃宏 藤田 一郎 中野 晋 前野 詩朗	スペシャルレスキューサービスジャパン(株) 北海道大学 東北大学 群馬大学 名古屋工業大学 神戸大学 徳島大学 岡山大学
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサルタント</li> </ul>	秋山 壽一郎 市山 誠 中村 謙一 中村 明彦 富田 邦裕 松田 寛志	九州工業大学 パシフィックコンサルタンツ 建設技術研究所 アジア航測株式会社 (株)建設環境研究所 日本工営株式会社 株式会社パスコ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の災害・防災関連組織</li> </ul>	野田 敦夫 大石 哲 神谷 大介	株式会社パスコ 神戸大学都市安全研究センター 琉球大学島嶼防災研究センター

# 水害対策小委員会 2018年度の活動

- 2018年4月: アメリカ合衆国ハリケーン災害調査の実施
- 2018年6月: 2018年度第一回水害対策小委員会開催
- 2018年7月: 2018年西日本豪雨災害調査団の結成・活動のサポート
- 2018年9月: 土木学会全国大会にて2018年西日本豪雨災害調査団の活動報告
- 2018年11月: 2018年度第二回水害対策小委員会開催  
河川災害シンポジウムの実施(北海道大学, 参加人数:214名)
- 参考: 2017年(岡山大学) 151名  
2016年(九州大学) 283名
- 配付資料に対して自然災害研究協議会から全額補助



2018年11月河川災害に関するシンポジウム

2019年3月: 西日本豪雨災害調査団の報告会を開催  
四国地区:3月2日,愛媛大学 中国地区:3月15日,岡山大学

## 2019年度の活動予定

- 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- 水害対策小委員会HPの公開
- 消防連携WG
- 災害写真データベースシステムの構築

2019年7月: 2019年度第一回小委員会開催

2019年11月: 河川災害に関するシンポジウムの実施  
2019年度第二回小委員会開催

## 土木学会水工学委員会 流量観測高度化研究小委員会 名簿

名前	所属	委員	オブザーバー	幹事
藤田一郎	神戸大	*		
岡田将司	高知高専	*		
手計太一	富山県立大	*		
椿涼太	名古屋大	*		
萬矢敦啓	土木研究所(ICHARM)	*		
橘田隆史	ハイドロシステム		*	
(清水武志)	土木研究所(ICHARM)			*

2019年2月1日

関係各位

土木学会水工学委員会  
流量観測技術高度化研究小委員会  
委員長 藤田一郎

## 平成31年度 土木学会流量観測技術高度化研究小委員会合同観測 計画書

### 【日程・場所】

日時：2019年4月17日（水）～20日（土）

観測地点：新潟県小千谷市、信濃川、旭橋（図.1）

作業時駐車場予定地：旭橋下流側・上流側，信濃川左岸天端・右岸高水敷（図.2、図.3）

### 【観測計画】

4月17日 10:00～19:00：観測準備（主に標定点・水位計の設置、座標測量）

4月18日 10:00～20:00：観測準備・予備観測・夜間観測

4月19日 10:00～19:00：本観測

20:00～：懇親会

4月20日 10:00～12:00：本観測

12:00～：解散



図.1 観測予定地



図.2 左岸駐車場予定地

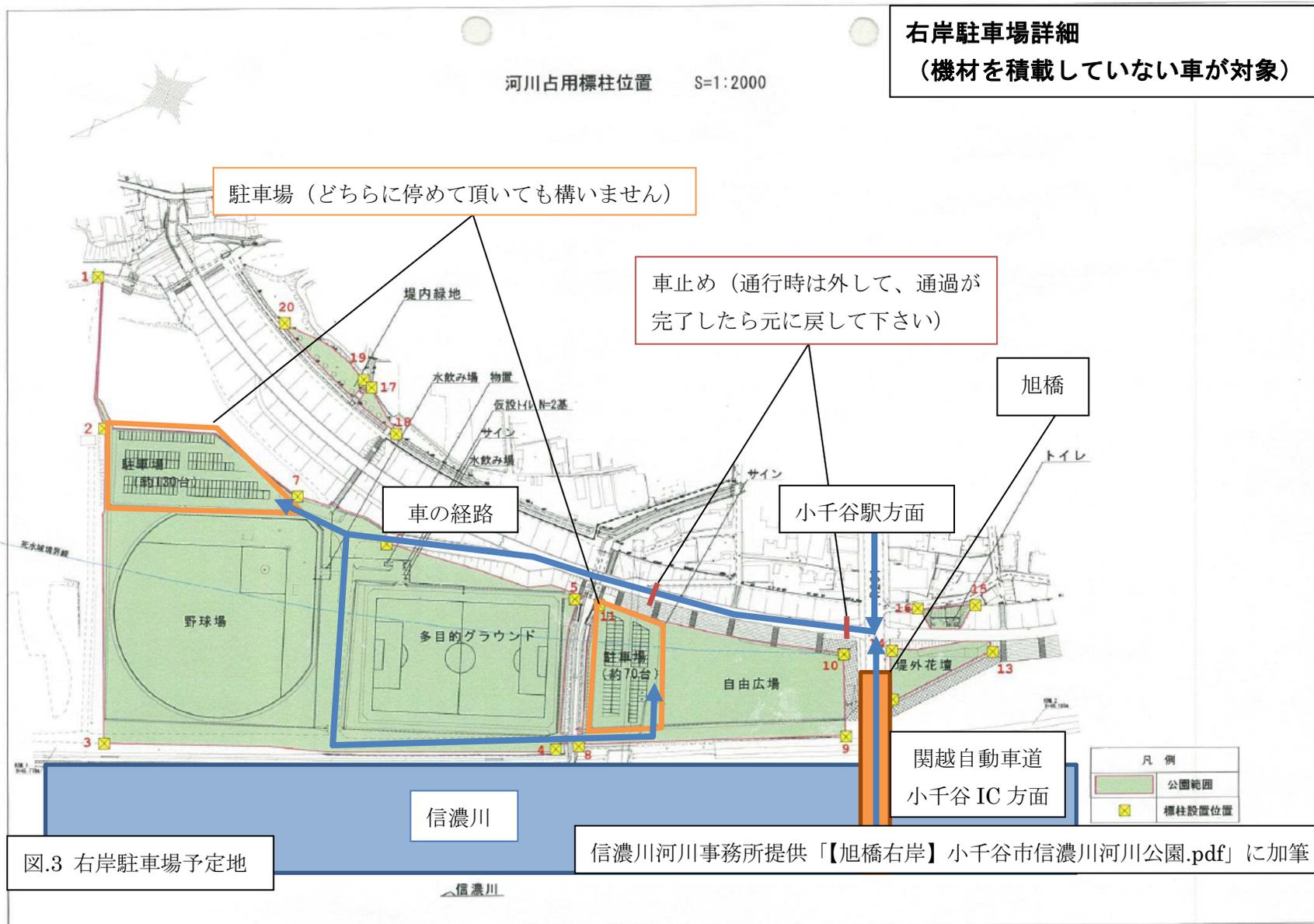


図.3 右岸駐車場予定地

信濃川河川事務所提供「【旭橋右岸】小千谷市信濃川河川公園.pdf」に加筆

### 【旭橋上の占用場所】



図.4 占用数量の概算



写真.1 歩道の占用場所

### 【占用時間】

17、18、19日: 8:00~19:00

20日: 8:00~12:00



令和元年 5 月 24 日

各位

(公社) 土木学会  
流量観測高度化研究小委員会  
委員長 藤田 一郎

## 第 8 回 流量観測の高度化に関する勉強会のお知らせ

薫風の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、『第 8 回 流量観測の高度化に関する勉強会』を下記の通り開催することとなりました。参加者および話題提供者を募集いたします。

奮ってご参加いただけますようお願い申し上げます。

### 記

1. 日時： 7 月 12 日 (金) 13:00~17:30 (予定)
2. 会場： 名古屋大学 ES 総合館 2 階 ES022 講義室  
Google map: <https://www.google.com/maps/@35.155496,136.9661562,468m/data=!3m1!1e3>
3. 費用： 無料
4. 申し込みおよび〆切
  - 1) 勉強会への参加希望  
別紙 2 に従い、5. 連絡先に E メールでご連絡ください。  
(公社) 土木学会の CPD 認定 (手続き中)  
〆切：6 月 30 日 (日)
  - 2) 話題提供希望  
1 名あたり 20 分 (質疑含む) で 13 話題 (予定) を募集します。  
希望者は、5. 連絡先に E メールでご連絡ください。  
希望者が多い場合、調整しますので予めご了承ください。  
〆切：6 月 21 日 (金)  
(参考) 別紙 1 に昨年度の話題提供一覧を掲載
5. 連絡先  
(国研) 土木研究所 水工研究グループ 水文チーム  
研究員 清水 [t-shimizu@pwri.go.jp](mailto:t-shimizu@pwri.go.jp)

以上

(参考資料)

## 2018 (平成 30) 年度 第 7 回 流量観測の高度化に関する勉強会

司会：萬矢敦啓 (土木研究所)

時間	講演 番号	題目	発表者
13:00-13:05	-	開会の挨拶	藤田一郎 (神戸大学)
13:05-13:10	1	信濃川合同観測の概要	小関博司 (土木研究所)
13:10-13:30	2	ミャンマーの沈下橋事業に関して	中尾忠彦 (河川情報センター)
13:30-13:50	3	浮子投下機を活用した電波式流速計の計測事例に関する報告	萬矢敦啓 (土木研究所)
13:50-14:10	4	ドローン搭載型電波式流速水位計の紹介	墳原学 (横河電子機器株式会社)
14:10-14:30	5	砂堆の伝播速度に着目した掃流砂量の計測法	小関博司 (土木研究所)
14:30-14:50	6	流量観測の不確実性	萬矢敦啓 (土木研究所)
14:50-15:10	7	ADCP 流量観測の不確実性を検証するための実験について～実河川における連続 180 計測結果と誤差分布および誤差要因の検証～	橋田隆史 (ハイドロシステム開発)
15:10-15:30	8	EZ ボートによる流量観測の紹介	笹川幸寛 (ハイドロシステム開発)
15:30-15:50	9	各種河川流速観測手法の比較検討	新井章珣 (富山県立大学)
15:50-16:10	10	時空間画像の波数・周波数スペクトルを利用した STIV の高性能化	藤田一郎 (神戸大学)
16:10-16:30	11	時空間画像の角度抽出について	椿 涼太 (名古屋大学)
16:30-16:50	12	複数カメラで分割撮影した流況画像による河道の面的流況観測と流れの可視化	小林範之 (東京建設コンサルタント 環境モニタリング研究所)
16:50-17:10	13	旭橋での UAV による計測結果の報告	西山典志 (福田水文センター)
17:10-17:30	14	超高感度カメラと遠赤外線カメラを用いた河川観測について	橋本 健 (D-Eyes)
17:30-17:35	-	閉会の挨拶	山本晶 (土木研究所)

# グローバル気候変動 適応研究推進小委員会

委員長 中山恵介(神戸大学)

幹事長 小林健一郎(神戸大学)

【代理説明:矢野(九大)】

# グローバル気候変動適応研究推進小委員会メンバー(R1.5.31現在:36名)

職区分名	氏名	勤務先	部会・専門
委員長	中山 恵介	神戸大学	環境水理
幹事長	小林健一郎	神戸大学	水文
委員兼幹事	中北 英一	京都大学 防災研究所	水文
委員兼幹事	矢野 真一郎	九州大学	環境水理
委員兼幹事	里深好文	立命館大学	基礎水理
委員兼幹事	戸田 祐嗣	名古屋大学	河川
委員兼幹事	田村浩敏	建設技術研究所	河川
委員兼幹事	宮本 仁志	芝浦工業大学	環境水理
委員兼幹事	矢島 啓	島根大学	環境水理
委員兼幹事	赤松良久	山口大学	環境水理(河川)
委員兼幹事	佐山敬洋	京都大学	水文(河川)
委員兼幹事	椿涼太	名古屋大学	河川
委員兼幹事	音田慎一郎	京都大学	基礎水理
委員	二瓶泰雄	東京理科大学	環境水理
委員	丸谷靖幸	岐阜大学	水文
委員	田中智大	京都大学	水文
委員 オブ	中津川誠	室蘭工業大学	水文
委員	多田毅	防衛大学校	水文
委員	渡部哲史	東京大学	水文
委員	溝口敦子	名城大学	河川
委員	山田朋人	北海道大学	水文
委員	森啓年	山口大学	河川堤防
委員	入江政安	大阪大学	沿岸環境
委員	東博紀	国立環境研究所	沿岸域
委員	井上卓也	寒地土木研究所	基礎水理
委員	内田龍彦	広島大学	基礎水理
委員	花崎直太	国立環境研究所	水文
委員	猪俣広典	土研ICHARM	水文
委員	小野村史穂	東京理科大学	水文
委員	森信人	京都大学防災研究所	海岸工学
委員	山城賢	九州大学	海岸工学
委員	笠間清伸	東京工業大学	地盤工学
委員	石蔵良平	九州大学	地盤工学
委員	多々納裕一	京都大学防災研究所	土木計画学
委員	藤見俊夫	熊本大学	土木計画学
委員	神谷大介	琉球大学	土木計画学

# H30年度の活動報告

## 1. 平成30年全国大会(北海道大学):

### ・共通セッション「気候変動による影響への適応」 H30.8/29

→17編3セッションを構成. R1年度全国大会(香川大)では実施しない. R2年度は復活させたい.

### ・研究討論会「極端災害事例から学ぶ気候変動適応の課題」 H30.8/29

→座長:中北英一 京都大学防災研究所

話題提供:

1. 平成27年鬼怒川水害から:二瓶泰雄(東京理科大学)
2. 平成29年7月九州北部豪雨から得られた教訓:矢野真一郎(九州大学)
3. 温暖化適応策のための洪水ハザードモデリング:佐山敬洋(京都大学防災研究所)
4. 海岸工学委員会・気候変動小委員会から:武若聡(筑波大学)
5. 気候変動の影響を考慮した治水計画について:森本輝(国土交通省水管理・国土保全局)
6. 平成28年台風災害を受けての北海道の取組事例紹介:中津川 誠(室蘭工業大学)

## 2. 第5回小委員会:8月の全国大会(札幌)で開催

次期小委員長の選出方法の確認.

→推薦の結果, 中山恵介神戸大教授を推挙. 小林幹事長は, 少なくとも1年間留任.

# H30年度の活動報告2

## 3. 適応シンポの開催(H31年4月13日:京大防災研):参加者110名

### 【プログラム】

13:00 開会挨拶 矢野真一郎(グローバル適応小委員会委員長・九州大学教授)

13:05 講演1「2018年7月西日本豪雨による河川災害の概要と課題」

前野詩朗(岡山大学教授・水工学委員会西日本豪雨災害調査団(中国地区)団長)

13:30 講演2「平成30年21号台風による沿岸部の被災と今後の教訓」

森信人(京大防災研教授・海岸工学委員会2018年台風21号Jebi沿岸災害調査団 団長)

13:55 講演3「大規模広域豪雨を踏まえた水災害対策について」

廣瀬昌由(国交省水管理・国土保全局河川計画課長)

休憩

14:35 パネルディスカッション「温暖化により激甚化する水災害に対抗するための適応策研究の推進に向けて」

コーディネーター:

中北英一(京大防災研教授)

パネラー:

二瓶泰雄(東京理科大学教授)

溝口敦子(名城大学教授)

武若 聡(筑波大学教授・海岸工学委員会適応小委員会委員長)

佐山敬洋(京大防災研准教授)

森本 輝(国交省水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長)

中津川誠(室蘭工業大学教授)

16:55 閉会挨拶 中山恵介(次期グローバル適応小委員会委員長・神戸大学教授)

17:00 閉会

※講演のパワポはHPで公開します。



# R1年度の活動計画

## 1. 令和元年度全国大会(香川大学):

・研究討論会「2018年台風21号・大阪湾高潮から学ぶ」大会初日(予定)

→ 座長:武若聡 筑波大学

話題提供(予定):

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 1. 青木伸一(大阪大学)  | 2. 森信人(京都大学防災研究所)    |
| 3. 安田雅宏(関西大学)  | 4. <u>中山恵介(神戸大学)</u> |
| 5. 平井洋次(国土交通省) | 6. 中谷行男(関西エアポート)     |

※今年度は海岸工学委員会の「沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会」が担当。

## 2. アゲールシンポの開催(R1年11月4日:大宮):

今回からグローバル小委員会が担当。現在、内容を詰めている。予定としては、水工学分野の気候変動関連研究者から4名程度登壇頂きパネルディスカッション形式で実施する見込み。

## 3. R1年度第1回小委員会:

9月の全国大会(香川)または11月の水工学講演会(大宮)で開催予定。

## 4. 国交省河川計画課との懇談会の設置:

気候変動影響を踏まえた水災害関連の学官の懇談会「温暖化適応策創生・実装連携会」を設置。事務局は官:河川計画課, 学:矢野(九大)。学26名(水工学・海岸工学分野から、うちグローバル委員が半数), 官23名。準備会を4/13, 第1回会議を5/24に開催。

# 河道管理研究小委員会

活動目的：

**河道管理に関する研究を推進**するとともに、水工学委員会河川部会、環境水理部会や、地盤工学、構造物、アセットマネジメントなど河道管理に関連する他分野の研究者、行政・民間の技術者との**連携、情報交換を促進**させ、当該分野の**研究の活性化**と**若手研究者・技術者の育成**、研究成果の**社会への還元**を図ることを目的とする。

委員長：田中規夫（埼玉大）

委員（#幹事，※幹事長）：

赤松良久（山口大），秋田麗子#（日本工営），内田龍彦（広島大），岡村誠司#（いであ），笠井雅広（国交省），後藤岳久#（中央大），重枝未玲（九工大），高畑栄治#（国交省），竹林洋史（京大），田中敬也（河川財団），田村善昭（国土技術センター），塚本洋祐#（建設技研），戸田祐嗣※（名古屋大），服部敦（国総研），原田守啓（岐阜大），福島雅紀#（国総研），榎井正将（国交省），溝口敦子（名城大），宮本仁志#（芝浦工大）

（計20名）

# 活動状況・活動予定

## 【活動状況】

2019/3/15（金） 第1回研究小委員会

体制・活動目標等の確認，活動予定の議論など

まずは「現場の課題」，「研究の進捗状況」に関する共通認識が大事  
⇒2019年度は3回の勉強会とワークショップを開催。

## 【活動予定】

2019/6/11（火） 13:00～ 第1回勉強会

「現場の課題」に関する話題提供（国総研）

「土砂」，「植生」，「環境」，「新技術」に関するショートレビュー

2019/9/18（水）， 11/19（火） 第2回および第3回勉強会

2020/1/14（火） ワークショップ

# CommonMP開発・運営コンソーシアム

CommonMP(Common Modeling Platform for water-material circulation analysis)は、水理・水文現象等の複合現象を解析するために、さまざまな異なった現象を再現する要素モデルを結合して一体的に協調・稼働させ、河川流域の複合現象をシミュレーションするための基盤ソフトウェアです。CommonMP上では、互いの演算時間間隔が異なる要素モデル同士を結合しても、水文データ等を交換しながら演算を進めることができます。CommonMPの要素モデルは、開発仕様が公開されているので、誰でも開発することができます。この特徴により、CommonMPを用いると、異なる開発者が開発した降雨流出モデル、河道洪水追跡モデル、氾濫解析モデル等を結合して、開発者同士が協力しながらシミュレーションを実施することができます。CommonMPは、様々な水理・水文現象等の複合現象のシミュレーションの実施や解析モデルの開発を促進するための仕組みを提供しています。

メンバー: 山田正(委員長、中央大)、風間聡(東北大、幹事長)、立川康人(京大、技術部部会長)、他多数

2019年6月27日 2019年度 第2回技術部会

2019年7月4日 第10回CommonMP推進委員会・第20回幹事会(合同開催)

# 流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会

目的: 河川は、治水・利水・環境といった多様な側面で地域と密接な関わりを持っており、そこに生じる諸課題には、水工学と土木計画学とが連携をして取り組むべき課題が多く存在します。本小委員会は、河川をキーワードに、流域管理と地域計画の連携の視点から取り組むべき研究について幅広く議論を展開し、連携研究の活性化、新たな研究テーマの発掘を目指します。

本小委員会は、水工学と土木計画学に携わる研究者および都市と河川行政関係者が今後の流域管理と地域計画の具体的な連携方策について議論し、国土交通省水管理・国土保全局の河川砂防技術研究開発制度等と連携して特定課題について共同研究等を実施することにより、流域管理と都市・地域計画の相互連携による総合的な街づくりの実現を目指します。

メンバー: 小池俊雄(委員長、ICHARM)、奥村 誠(東北大)、谷口 守(筑波大)、戸田圭一(京大)、古米弘明(東大)、市川 温(京大)、尾崎 平(関大)、清水義彦(群馬大)、多々納裕一(京大)、立川康人(幹事、京大)、田中尚人(幹事、熊大)、田中規夫(埼玉大)、塚井誠人(広島大)、横松宗太(京大)

第7回 流域管理と地域計画の連携に関するワークショップ

日時: 令和元年 12月11日(水) 14:00~17:30

場所: 土木学会行動

内容: 検討中

**President**

Prof. Peter Goodwin  
Univ. of Maryland, USA

**Council Members 2017-2019****Vice President**

Prof. James Ball  
Univ. of Technology Sydney,  
Australia



Prof. Arturo Marciano  
CVG EDELCA,  
Venezuela



Prof. Silke Wieprecht  
Universität Stuttgart,  
Germany

**Secretary Generals**

Dr. Ramon  
Gutierrez Serret  
CEDEX, Spain



Dr. Jing Peng  
Vice President of IWHR,  
China

## Council Members



Prof. Vlandan Babovic  
National University  
Singapore,  
Singapore



Prof. Subhasish Dey  
India Kharagpur  
Institute of Technology,  
India



Prof. Robert Ettema  
Colorado State Univ.,  
USA



Prof. Pengzhi Lin  
Sichuan Univ.,  
China



Prof. Rafael Murillo  
Munoz  
Univ. of Costa Rica  
Costa Rica



Prof. Vladimir Nikora  
Univ. of Aberdeen  
UK



Dr. Ioana Popescu  
UNESCO-IHE  
Netherlands



Prof. Stefano Pagliara  
Univ. of Pisa  
Italy

## Regional Division Chairs



Prof. Hyoseop Woo  
Chair of the Asia &  
Pacific Division  
Gwangju Institute of  
Science and Technology  
Korea



Dr. Jose N. de Pierola C.  
Chair of the Latin  
American Division  
Southern Peru Copper  
Corp., Peru



Prof. David Stephenson  
Chair of the Africa  
Division  
Botswana



Prof. Corrado Gisonni  
Chair of the Europe  
Division  
Italy

## Co-opted Members



Dr. Damien Violeau  
Electricité De France,  
Division R&D  
France



Prof. Hajime Nakagawa  
Kyoto Univ.,  
Japan



Prof. Nor Azazi Zakaria  
Univ. Sains Malaysia  
(USM)  
Malaysia

# 1 . World Congress of IAHR

38<sup>th</sup> : Panama City, Panama, Sept. 1-6 in 2019

39<sup>th</sup> : Granada, Spain in 2021

40<sup>th</sup> : Vienna, Austria in 2023 (approved)

## APD – IAHRの動向について(ジョグジャカルタ会議) (抜粋)

IAHR日本支部会議2018/11

1) 事務局がKCITになって初めての会議。事務局メンバーの紹介があった。

2) 21st IAHR-APD Congress (2018, Yogyakarta, Indonesia)

・参加23カ国、参加者218人(うち日本人64人、インドネシア69人)

3) 22nd IAHR-APD Congress (2020, Sapporo, Japan)

・北大・清水実行委員長による資料説明(内容: プログラム、テーマ・サブテーマ、レジストレーションの料金設定など)――概ねの方向は了承された。

※EC会議のときではないが、Gregory副会長(2019から会長)より、APDの参加者は通常、**日本(1/3)、開催国(1/3)、その他(1/3)程度**なので、札幌開催時には、参加者が減るのではないかという懸念が表明された。**日本からの倍程度の参加者を期待したい**とのことであった。

4) 2022年開催地について

**インド・チェンナイ**に決定した。

5) 新規委員(2019-2020)

Member: インドIITマドラスのAnnamalaisamy教授、韓国Choi教授

Co-opted member: 日本・清水教授、ベトナム・Viet教授 が承認された

6) 次期(2019- )会長・副会長

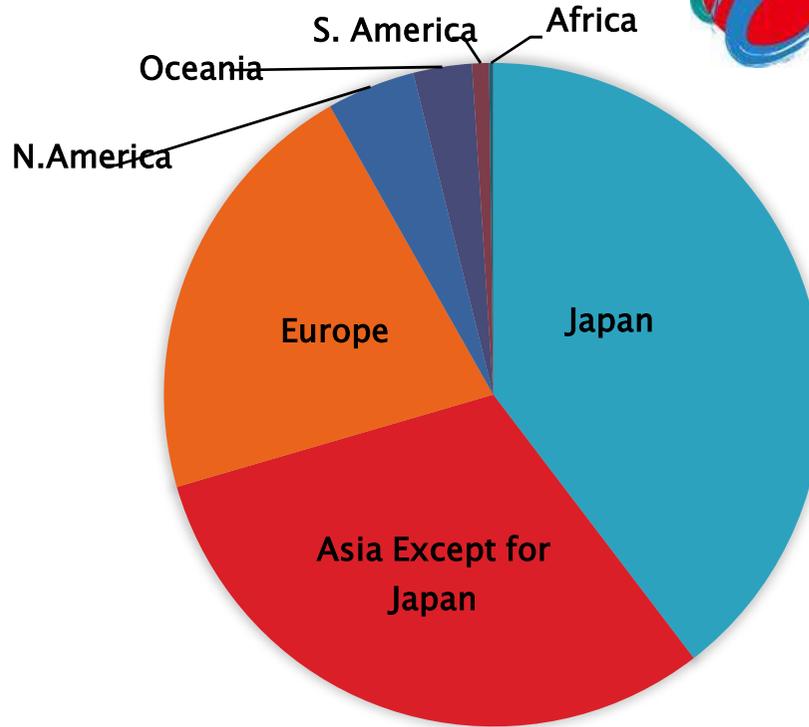
現在副会長の**Gregory de Costa**氏が会長に推薦され承認された

インドネシアの**Triatmadja**氏が副会長に推薦され承認された

Total participants : 485  
 Countries and regions: 37  
 Number of Sessions: 46  
 Preliminary talks: 6  
 Presentations: 496



**ISE 2018**  
 International Symposium on Ecohydraulics



Number of participants

200  
180  
160  
140  
120  
100  
80  
60  
40  
20  
0



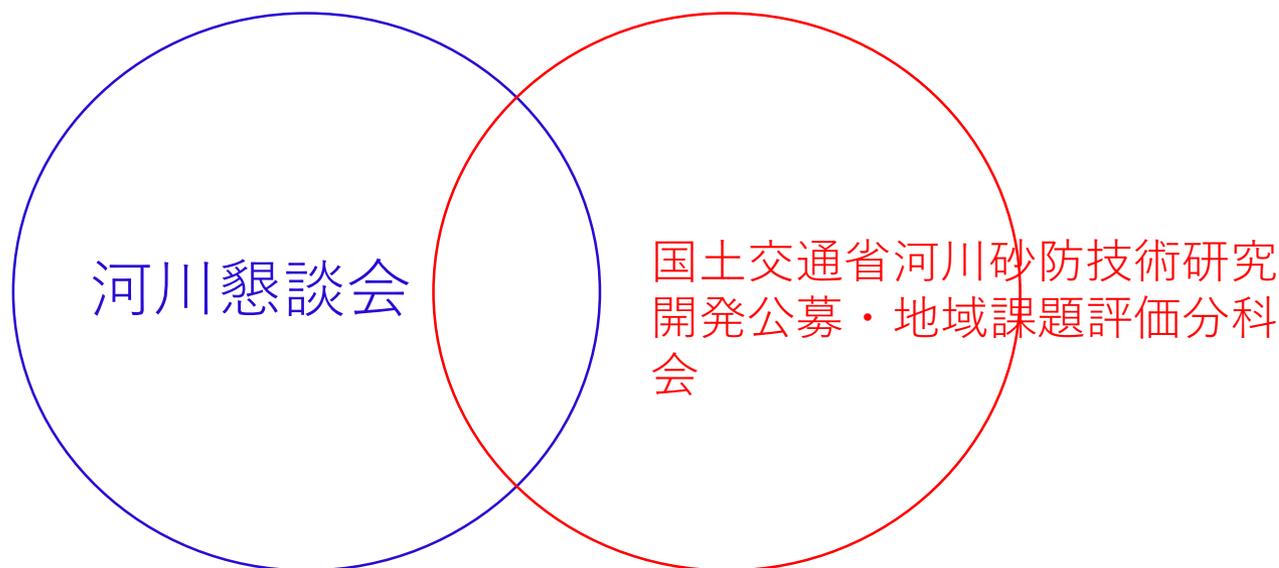
# 土木学会論文集

## 平成30年西本豪雨災害特別企画 報告

委員長 北海道大学 泉典洋

### ■スケジュール

日程	土木学会論文集(和文)	Journal of JSCE (英文)
2018年12月1日	投稿開始	
<del>～2019年3月31日</del> ⇒2019年4月26日	<b>投稿締切</b> <b>※締切を延期しました。</b>	
 2019年1月～6月	査読期間 (随時スタート)	
2019年8月末 ⇒2019年9月末	登載可否決定	英文翻訳依頼
2019年12月20日	J-STAGE掲載予定	
2019年11月～2020年1月		査読, 校閲期間
2020年2月末		登載可否決定
2020年3月20日		J-STAGE掲載予定



河川懇談会座長

(座長は水工学委員会委員長の指名)

河川砂防技術研究開発公募・  
地域課題評価分科会の分科会長を兼ねる。  
分科会委員は分科会長が指名。

道奥康治（法政大）◎，風間聡（東北大），田中規夫（埼玉大），清水義彦（群馬大），中北英一（京大），角哲也（京大），立川康人（京大）、  
渡辺康玄（北見工大），戸田祐嗣（名大），矢野真一郎（九大），二瓶泰雄（東京理科大），中山恵介（神戸大）

# 水理公式集 2018年版

## 水理公式集

[2018年版]

- 編集：水工学委員会 水理公式集編集小委員会  
(委員長：名古屋大学名誉教授・辻本 哲郎)
  - 2019年3月発行、B5判、927ページ、上製本
  - 定価：14,040円(本体13,000円+税)
  - 会員特価：12,640円(税込)**
  - 送料：590円
- ISBN- 978-4-8106-0835-9

土木學會

4月末時点・発行後2カ月で初版3,000部の約半分の売上となりました。

## 2019年度スケジュール (赤字は未定, 昨年度)

	水工学委員会, 編集小委員会	部会, 小委員会	その他 (共催)
2019 年4月		4/1 基礎水理部会・基礎水理 WS@土木学会 4/13 グローカル小委員会・適応シンポ@京大防災研	
5月	5/31 水工学論文集締切		
6月	6/6 第一回水工学委員会 6/7 第一回編集小委員会幹事会, 第一回編集小委員会	6/4 基礎水理部会・流木研究会 in 富山 6/11-12 河川部会・河川シンポジウム 6/20-22 環境水理部会・研究集会 in 岩木川 6/26-28 基礎水理部会・iRIC 講習会 in 大阪	
7月	7/11 第二回編集小委員会 (メール審議, 執行部は会議)	7/12 流量小委員会・流量観測高度化に関する勉強会@名大	
8月	8/7 第三回編集小委員会 (メール審議) 8/20 第二回編集小委員会幹事会 8/22-23 水シンポジウム in 滋賀 (執行部+基礎水理部会)	8/*基礎水理部会・流砂・河床変動若手研究会 in 札幌	
9月		9/3-5 土木学会全国大会研究討論会 (グローカル小委員会)	9/9 日米沿岸生態系に関する講演会@土木学会
10月		10/27-29 基礎水理部会・現場見学会 in 富山	
11月	11/4~6 第64回水工学講演会@大宮, アゲールシンポ (グローカル小委員会), 河川災害シンポ (水害対策小委員会) 11/4 第二回水工学委員会	11/8-9 水文部会・研究集会	
12月		12/11 流域管理小委員会・ワークショップ@土木学会 12/14 基礎水理部会・基礎水理シンポジウム	
2020 年1月		1/14 河道管理研究小委員会・ワークショップ	
2月			
3月			
4月			
5月	5/31 水工学論文集締切		

2019年5月16日

水工学委員会  
委員長 清水 康行 様

公益社団法人 土木学会  
調査研究部門  
主査理事 京谷 孝史

2018年度 調査研究委員会の活動度評価の結果  
および 2019年度調査研究費予算配分について（ご報告）

土木学会調査研究部門会議は、調査研究部門に所属する委員会の2018年度における活動度について、厳正に評価いたしました。

その結果、貴委員会の活動度の評価結果は下記のとおりとなりましたので、ご報告いたします。

なお、ご参考までに平成26年度～29年度の総合評価を併記いたしますとともに、「2018年度実績の委員会情報発信数」を添付いたします。

## 記

## 1. 2018年度実績の委員会活動度評価結果および2019年度予算配分額

年度	情報発信数			活動度評価 ランク	2019年度配分 額
	①行事参加者数	②出版物購読者数	合計（①+ ②）		
2018年度	4103人	1036人	5139人	A	953千円

- ・ 上記配分額には、調査研究拡充支援金を含みません。
- ・ 活動度評価がCランクとなった委員会は、研究企画委員会に対して活動内容、情報発信数が低迷した理由及び情報発信数以外で評価して欲しい点を別紙にて報告するものとする。
- ・ 活動度改善に向けて、調査研究部門としても適宜個別にアドバイスさせていただきますので、何かございましたら問合窓口までお知らせください。また、評価結果に異議のある委員会についても問合窓口までご連絡ください。

2. [参考] 活動度評価ランクと予算配分の関係

活動度評価 ランク	情報発信数	予算配分
A	2,500人以上	予算総額に応じて55万円+情報発信数に応じた金額。ただしAランクの情報発信数は2,500人として計算※。
B	500人以上 2,500人未満	
C	500人未満	一律55万円

※A, Bランクの委員会の予算配分方法

$$\text{予算配分額} = 55 \text{万円} + \text{情報発信数 (500人超分) に比例した金額}$$

$$= 55 \text{万円} + (S - 55 \text{万円} \times n) \times a / b$$

ここに、S：当該年度の調査研究委員会の総予算額（2019年度調査研究部門予算から新規制度等調査研究費（重点研究課題）ならびに研究企画委員会予算を除いた2,187.9万円）

a：当該委員会の情報発信数（Aランクは2,500人とする）－500人

b：全委員会のaの合計（2018年度：29,429人）

n：委員会数（現在29、研究企画委員会は含まず）

3. [参考] 平成26年度～29年度の貴委員会の総合評価

年度	総合評価
平成26年度	A
平成27年度	A
平成28年度	A
平成29年度	A

問合せ窓口：事務局 研究事業課長 工藤 (kudo@jsce.or.jp)

以上

2019 年 6 月 6 日

(仮称)日米沿岸生態系に関する講演会

主 催:一般財団法人・鹿島平和研究所

共 催:土木学会水工学委員会

日 時:2019 年 9 月 9 日午後 (時間未定)全体で 2 時間 30 分

場 所:土木学会講堂

趣 旨:

米国スミソニアン環境研究センター・植物生態系研究室長・Dr. Whigham (添付資料参照) の来日に合わせ、日米の沿岸生態系に関する課題と研究状況について情報交換し、今後の研究発展に寄与する。

プログラム: (全体 2 時間 30 分)

00:00-00:10 講演会趣旨説明+Whigham 博士紹介

00:10-1:00 Whigham 博士講演

Watershed development and shoreline modifications impact  
ecological processes in estuarine environments

1:00-1:20 質疑

1:20-1:50 日本側から日本の沿岸環境について講演 (講演者検討中)

1:50-2:10 質疑

2:10-2:30 全体討論+Closing

備考:水工学委員会担当:横山勝英委員 (首都大)

# 0. 水工学論文集編集作業について(会議予定)

協議資料1

開催日	会議	会場
2019年5月1日(水)	論文投稿受付開始	
<del>2019年5月31日(金)</del>	<del>論文投稿受付締切</del>	
2019年6月6日(木)	第一回水工学委員会	土木学会会議室
2019年6月7日(金)	第一回編集小委員会幹事会 第一回編集小委員会	主婦会館プラザエフ
2019年7月1日(月)	第1回査読期限	
2019年7月9日(火)	第二回編集小委員会(メール審議)	
2019年7月31日(水)	修正原稿締切	
2019年8月7日(水)	第三回編集小委員会(メール審議)	
2019年8月20日(火)	第二回編集小委員会幹事会	土木学会会議室
2019年8月28日(水)	最終原稿締切	
2019年11月4日(月)	第二回水工学委員会(@講演会)	大宮ソニックシティ

# 1. 今年度の方針(昨年度の継続)

- ① 開催時期変更(3月→11月)への適応  
(11月末から11月初め頃へ)
- ② 返却論文に対する修正意見の開示
  - ・ 返却理由書に主な修正意見を付して送付。(6月後半に例文集を送付)
- ③ 講演会としての活性化を目指した試み
  - ・ 司会者2名体制(シニア・中堅＋若手)
  - ・ 各セッションに総合討議の時間を配置
  - ・ アウトスタンディング・ディスカッション賞

# 企業広告を論文集CDに導入

**土木学会論文集 B1 (水工学)**  
Vol. 74, No. 4, 2018  
Journal of Japan Society of Civil Engineers,  
Ser. B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 74(2018), No. 4

**水工学論文集 第62巻**  
Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE Vol. 62  
平成30年2月  
土木学会水工学委員会

目次 | Contents  
セッション・リスト / Session List  
委員構成 | 査読員名簿

講演会と関連行事のプログラム / Program of Conference and Related Events (PDF)

関連業界案内 (PDF)

 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.	 環境システム 株式会社	 CTI 株式会社 建設技術研究所 http://www.ctie.co.jp
 株式会社 ドーコン	 株式会社 トクエイ Tokai C. E. E. Consultants Co., Ltd.	 NEWJEC
 NIPPON KOEI 日本工営株式会社	 株式会社 ハイドロソフト技術研究所	 Pacific Consultants
 株式会社 エイヨー 八千代エンジニアリング株式会社	(五十音順)	

CD-ROMについて

## 第62回 水工学講演会 関連業界案内

<p>国土交通大臣登録 建26第116号</p> <p> 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.</p> <p>代表取締役社長 小谷 裕 司</p>	<p>河川、砂防、港湾分野など水を取り巻くインフラ整備において、 新技術を活用した“水ソリューション”を提供しています。 主要商品：河川・ダム・砂防・農業土木・港湾・海岸施設の計画・設計、総合土砂管理、河川浸水・津浪・高潮等のシミュレーション解析と防災対策、各施設の耐震解析・設計・長寿命化計画、自然再生・水辺環境整備・利活用計画</p> <p>本社：〒700-8617 岡山県岡山市北区津島京町三丁目1番21号 TEL: 086-252-8917 ホームページ: <a href="http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html">http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html</a></p>
<p> 環境システム 株式会社</p> <p>代表取締役社長 鮎川 和 泰</p>	<p>取扱製品：■多項目水質計 水温・濁度・溶存酸素・クロロフィルa・pH 電導度・ORP・フィコシアニン等 ■水質計自動昇降装置</p> <p>本社：〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7-1-3 ARIC TEL: 06-6657-5130 ホームページ: <a href="http://www.hydrolab.co.jp/">http://www.hydrolab.co.jp/</a></p>
<p>国土交通大臣登録 建26第133号</p>	<p>業務内容：1.建設関係の調査、計画、設計</p>

水工学講演会にあたり、本欄に掲載の企業・団体よりご支援いただいております。

 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.	 環境システム 株式会社
 CTI 株式会社 建設技術研究所 http://www.ctie.co.jp	 株式会社 ドーコン
 株式会社 トクエイ Tokai C. E. E. Consultants Co., Ltd.	 NEWJEC
 NIPPON KOEI 日本工営株式会社	 株式会社 ハイドロソフト技術研究所
 Pacific Consultants	 株式会社 エイヨー 八千代エンジニアリング株式会社

各社の詳細は、CD 論文集の関連企業案内をご参照いただくとともに、CD 内の  
「アナーリスト」をクリックして各社へお問合せください。

この冊子には、水工学講演会をサポートしていただいた各企業からの支援を御礼申し上げます。  
各社のロゴマークもご活用させていただきます。

土木学会論文集 B1 (水工学)  
Vol.74, No.4, 2018  
平成30年2月10日発行  
編纂者：土木学会水工学委員会  
発行所：〒160-0004  
東京都新宿区四谷1丁目外津公園内  
公益社団法人 土木学会  
<http://www.jsce.or.jp>  
製作：秋田活版印刷株式会社

水工学講演会の開催にあたり、本欄に掲載の企業・団体よりご支援いただいております。  
各社の詳細は、CD 論文集の関連企業案内をご参照いただくとともに、CD 内の「アナーリスト」をクリックして各社へお問合せください。

<p> 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.</p> <p>本社：〒700-8617 岡山県岡山市北区津島京町三丁目1番21号 TEL: 086-252-8917 ホームページ: <a href="http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html">http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html</a></p>	<p> 環境システム 株式会社</p> <p>本社：〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7-1-3 ARIC TEL: 06-6657-5130 ホームページ: <a href="http://www.hydrolab.co.jp/">http://www.hydrolab.co.jp/</a></p>
<p> CTI 株式会社 建設技術研究所</p> <p>本社：〒1023-4420 東京都中央区銀座3-2-14 日本橋ビルタワー TEL: 03-3668-0451 (内線) ホームページ: <a href="http://www.ctie.co.jp">http://www.ctie.co.jp</a></p>	<p> 株式会社 ドーコン</p> <p>本社：〒1004-8585 北海道札幌市中央区南一条5丁目4番1号 TEL: 011-801-1500 ホームページ: <a href="http://www.docon.jp/">http://www.docon.jp/</a></p>
<p> 株式会社 トクエイ Tokai C. E. E. Consultants Co., Ltd.</p> <p>本社：〒1170-0004 東京都豊島区池袋1-15-6 TEL: 03-5660-2633 ホームページ: <a href="http://www.tokai.or.jp/">http://www.tokai.or.jp/</a></p>	<p>自然と人を結ぶ NEWJEC 株式会社 ニュージェック</p> <p>本社：〒133-0014 東京都文京区本郷3-3-20 TEL: 06-6374-4901 (F) 東京支店：〒136-0071 東京都荒川区西池袋11-5-7 TEL: 03-5628-7201 (F) ホームページ: <a href="http://www.newjec.co.jp/">http://www.newjec.co.jp/</a></p>
<p> NIPPON KOEI 日本工営株式会社</p> <p>本社：〒102-8539 東京都千代田区丸の内1-4-6 TEL: 03-3238-8321 ホームページ: <a href="http://www.nikkei.co.jp/">http://www.nikkei.co.jp/</a></p>	<p> 株式会社 ハイドロソフト技術研究所</p> <p>本社：〒102-8539 東京都千代田区丸の内1-4-6 TEL: 03-6479-5821 ホームページ: <a href="http://www.hydrosoft.co.jp">http://www.hydrosoft.co.jp</a></p>
<p> 株式会社 エイヨー 八千代エンジニアリング株式会社</p> <p>本社：〒101-8642 東京都千代田区東田原町1丁目32番地 TEL: 03-4777-3001 (内線) ホームページ: <a href="http://www.yeo.or.jp/">http://www.yeo.or.jp/</a></p>	<p> 株式会社 エイヨー 八千代エンジニアリング株式会社</p> <p>本社：〒111-8648 東京都台東区東上野4-20-45 5F TEL: 03-5822-2900 (内線) ホームページ: <a href="http://www.yeo.or.jp/">http://www.yeo.or.jp/</a></p>

水工学委員会では、水工学講演会をサポートしていただいた各企業からの支援を御礼申し上げます。各社のロゴマークもご活用させていただきます。

## 2. 投稿状況

投稿数: 315件

巻	年	投稿数	採択数	採択率
53	2009	343	255	74.3
54	2010	363	276	76.0
55	2011	379	283	74.7
56	2012	403	301	74.7
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	326	245	75.2
62	2018	344	258	75.0
63	2018	318	257	80.8
64	2019	315	?	?

分野	査読キーワード	投稿数 2019	投稿数			分野別 2019	分野別			編集委 員数	一人当 り担当数
			2018	2017	2016		2018	2017	2016		
水文	水文気象プロセス	9	16	19	11	74	86	95	72	16	9.3
	生態水文	1	1	1	0						
	気候変動とリスク評価	23	28	21	16						
	降水	14	14	13	13						
	流出解析	12	6	16	15						
	水文統計／水文情報	5	10	9	4						
	雪氷水文	3	3	6	3						
	地下水・浸透	7	8	10	10						
水災害・ 防災・減 災	流域管理・洪水リスク管理	21	18	22	25	89	72	83	73	17	10.5
	水災害・防災・減災	51	43	44	33						
	水害・氾濫の水理	17	11	17	15						
流砂	流域土砂動態	8	7	8	8	42	42	44	47	9	9.3
	流砂	10	11	14	10						
	河床形態・流路形態	14	13	11	15						
	河床変動	10	11	11	14						
河川水理	管路・局所流	3	2	1	3	41	46	53	50	10	8.2
	開水路の水理	15	15	20	19						
	密度流・噴流・拡散	1	2	0	2						
	水理現象の数値解析	10	13	14	11						
	流体力・流体振動・波動	2	4	2	2						
	観測技術	10	10	16	13						
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	11	9	9	16	46	40	41	54	11	8.4
	流域の流出負荷・河川の水質	5	7	7	9						
	水生生物・魚道	22	15	16	21						
	河道の植生	6	5	5	7						
	河道の物理環境	2	4	4	1						
湖沼・ダ ム、沿岸	湖沼・貯水池の水理と環境	10	16	8	13	23	32	28	30	7	6.6
	沿岸・河口域の水理と環境	7	12	14	12						
	津波	6	4	6	5						
	計	315	318	344	326					70	8.7

# アウトスタンディング・ディスカッション賞(案)

座長へ「強く推薦する」、「推薦する」、「該当なし」の評価を依頼

選考手順:

①「強く推薦する」または複数セッションから「推薦する」と名前が挙げ  
がった方を抽出

⇒ 11名

②「強く推薦する」だけに絞ると10名. 残りの1名は3セッションから「推  
薦する」.

過去の受賞人数(60回:14名, 61回:12名, 62回:9名)

⇒ 第63回はこの11名を受賞者候補とする.

以上

# 2019 年度 第 6 4 回水工学講演会 開催計画

- 日程：2019 年 1 1 月 4 日(月)～6 日 (水) の 3 日間
- 場所：大宮駅西口 ソニックシティ  
(〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5  
ソニックシティビル・シティホール)

**<https://www.sonic-city.or.jp/>**

※上記の日程で部屋を予約済み.

- 幹事：田中規夫(埼大),八木澤順治(埼大),溝口裕太(埼大)

# 交通アクセス



## ソニックシティ最寄りの駅からのご案内

### JR・東武野田線のご利用の場合

大宮駅西口から会場まで..... (徒歩約3分)

### 羽田空港から大宮駅までのアクセス

#### JR線

東京駅..... 約36分..... (徒歩約3分)

上野駅..... 約25分..... (徒歩約3分)

### 新幹線でお越しのお客様

首都高速道路埼玉大宮線[新都心西IC]より1km

駐車場もご利用いただけます。(有料)

〈お問合せ先〉

駐車場センター 048-647-7712

会場		11月4日						
第64回(予定)	9:30-9:50	10:00-10:30	10:45-12:45	13:00-14:00	14:00-15:55	16:05-18:00	18:30	
	開会式	論文賞特別講演	S0: 7編+総合討議	IAHR ジャパンチャプター	アゲールシンポ	河川災害シンポ	水工学委員会	
F1	開会式	論文賞特別講演		IAHR ジャパンチャプター	アゲールシンポ	河川災害シンポ		
F2								
F3								
F4								
F5								
F6								
				IAHR ジャパンチャプター			水工学委員会	
事務局・製品展示 (11:45)	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	
事務局・製品展示 (11:45)	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室	
事務局・製品展示 (11:45)	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室	
事務局・製品展示 (11:45)	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室	

## 講演会場とプログラム

## 確認事項

1)会場 9 時。講演開始 9:30。昼休みは 13:00-14:00 と、例年より 30 分遅いスタート。

※開始を早めることも可能だが、特別料金 (10 万円強) が発生する

※Office 街の昼食時間帯を少しずらしたほうがよい

会場		11月5日						
第64回(予定)	9:30-11:15	11:30-13:00	13:00-14:00	14:00-15:30	15:45-18:15	18:30		
	S02: 8編+総合討議	S03: 9編+総合討議		S04: 9編+総合討議				
F1					特別講演			
F2								
F3								
F4								
F5								
F6								
						交流会		
事務局・製品展示 (11:45)	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局・製品展示	交流会(準備)	交流会		
事務局・製品展示 (11:45)	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室	交流会(準備)	交流会		
事務局・製品展示 (11:45)	会議室	会議室	会議室	会議室	機器など保管室	機器など保管室		
事務局・製品展示 (11:45)	会議室	会議室	会議室	会議室	機器など保管室	機器など保管室		

会場		11月6日						
第64回(予定)	9:30-11:15	11:30-13:00	13:00-14:00	14:00-15:30	15:45-17:30	17:35-17:45		
	S05: 6編+総合討議	S06: 5編+総合討議		S07: 5編+総合討議	S08: 6編+総合討議			
F1								
F2								
F3						閉会式		
F4								
F5								
F6								
	事務局・製品展示	事務局・製品展示	事務局	事務局	事務局			
事務局・製品展示 (11:45)	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室	休憩室			
事務局・製品展示 (11:45)	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室			
事務局・製品展示 (11:45)	会議室	会議室	会議室	会議室	会議室			

特別講演(2019年11月5日午後)

- ・森地 茂氏 (政策研究大学院大学 教授)

地域強靱化の諸課題への対応

- ・福岡捷二氏 (中央大学研究開発機構 教授)

水工学の既存概念の創造的破壊をー学術と  
技術の革新に向けて

## その他

- ・食堂はありません。近くの食堂をご利用ください。

- ・懇親会について（市民ホール 402・403）

- ・ホテル

他会場と開催時期が重なる可能性がありますので

お早目にご予約下さい。

## 予算関係

- 支出（予定）

- 会場費：概算 1,500,000 ←3日間(9:00～21:30)

- アルバイト：去年と同じ程度

- その他：

- 収入：さいたま市の2019年度用会議助成は2018年6月で終了。民間からの寄付をお願いしたい。

## 小ホール

(講演会場) 1,2 日目の講演会の時間帯以外は第 1 会場



496席の小ホール。

1日目

2日目

映写室 (16mm 映写・スライド映写可能)・音響調整室・  
調光室・ビデオプロジェクター・ロッカー室

# 会議室 906 (第2会場)



102 席

市民ホール (401) (90 席) (第 3 会場)

市民ホール(404) (90 席) (第 4 会場)

第 1・第 4 集会室(401・404) 171m<sup>2</sup> (90 席) × 2 室



会議室 602、603 185m<sup>2</sup> (90 席) × 2 (第 5, 6 会場)、601 (78 席) (第 1 会場 : 11/6 のみ)



部会、事務局用

市民ホール (402) 185m<sup>2</sup> (111 席) (事務局兼企業展示)

市民ホール(403) 185m<sup>2</sup> (111 席) (休憩スペース)

机を移動し、交流会にも使用



会議室 702 76m<sup>2</sup> (36 席) (第 1 会議室)

会議室 703 76m<sup>2</sup> (36 席) (第 2 会議室)

講演会開催期間中に部会等の打ち合わせを行う場合

- ・ 会議室 702, 703 が使用可能
- ・ ただし、備え付けのプロジェクターがないため、極力事前にメール等で資料を共有してのペーパーレス会議にご協力ください
- ・ もしくは個人でプロジェクターを持参の上、ご使用頂くことは可能です。（両会議室ともに備え付けのスクリーンは使用可能です）

## 第6 4回水工学講演会における製品展示の募集

- ・ 展示期間：11月4日（月）午前から11月6日（水）午前
- ・ 場所：市民ホール402（事務局と同じ部屋）
- ・ 展示方法：テーブル，椅子，コンセントを事務局にて準備
- ・ 申込み先：土木学会 水工学委員会担当  
林様（j-hayashi@jsce.or.jp）
- ・ 申込み締切日：10月10日（木）まで
- ・ 注意事項
  - 1)応募多数の場合は，製品展示会場のスペースの関係でお断りする可能性があります。
  - 2)同会場で交流会が予定されていることから，別室で機器類を一時的に保管する必要があります。

水工学講演会    水工学に関する夏期研修会    水シンポジウム

水工 研修 シンポ

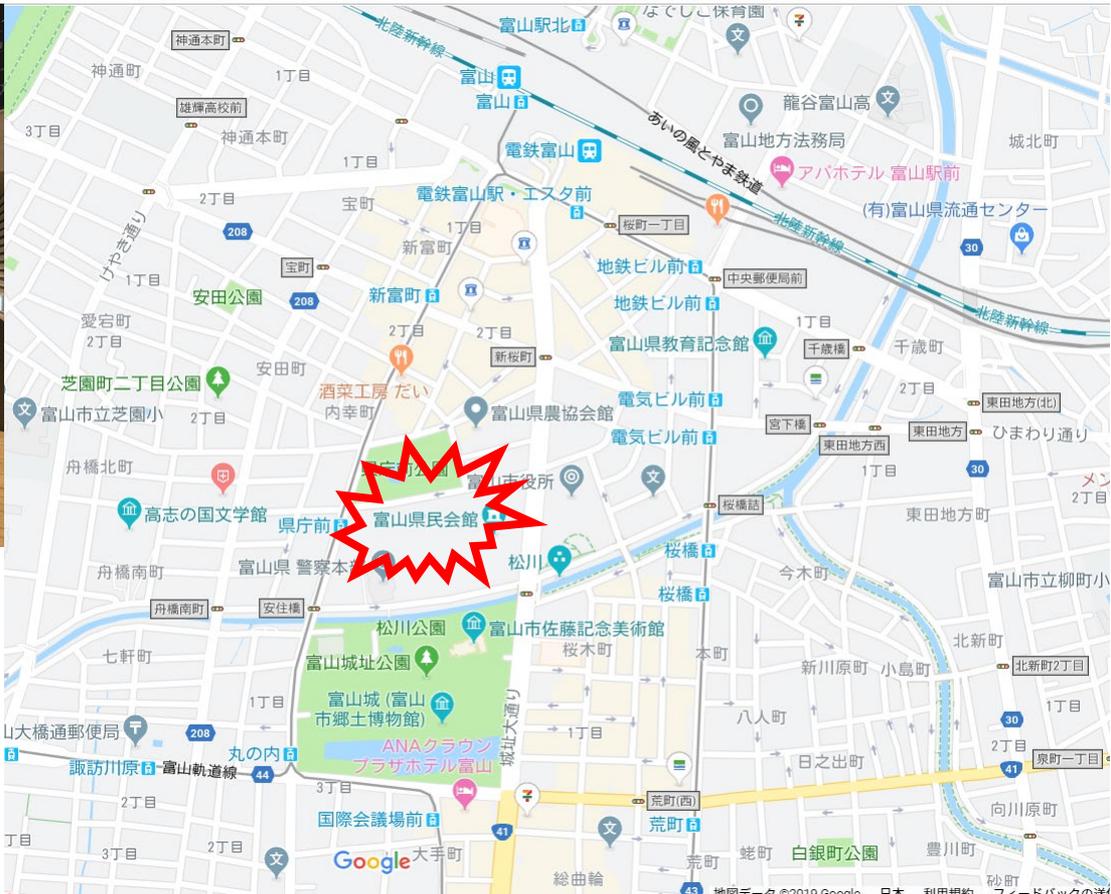
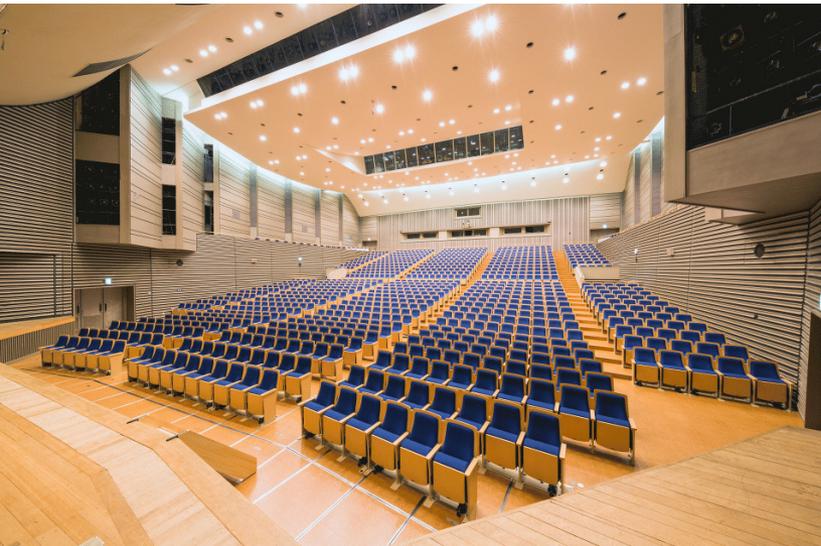
回	回	回	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
	1		1965					京都			
	2		1966	札幌							
	3		1967			東京					
	4		1968				名古屋				
	5		1969								福岡
	6		1970		仙台						
	7		1971							広島	
	8		1972			東京					
	9		1973					大阪			
	10		1974						徳島		
	11		1975	札幌							
	12		1976								福岡
	13		1977				長野				
	14		1978			東京					
	15		1979		仙台						
	16		1980					京都			
	17		1981	札幌							
	18		1982							岡山	
	19		1983								福岡
	20		1984				岐阜				
	21		1985			東京					
	22		1986		岩手						
	23		1987					神戸			
	24		1988	札幌							
	25		1989							鳥取	
	26		1990								福岡
	27		1991				金沢				
回	28		1992			東京					
38	29		1993		秋田	中央大					
39	30		1994			中央大		大阪			
40	31		1995	北見		中央大					
41	32	1	1996			中央大				山口	
42	33	2	1997					兵庫	徳島	鳥取	
43	34	3	1998		福島		名古屋	立命館大			
44	35	4	1999		日大	東京					北九州
45	36	5	2000			東工大					熊本
46	37	6	2001		山形		名工大				
47	38	7	2002	札幌		早稲田大		京都			
48	39	8	2003						愛媛	岡山	熊本大
49	40	9	2004	釧路		国士館大				広島	
50	41	10	2005					京都大	愛媛		
51	42	11	2006		宮城	法政大	岐阜	大阪			
52	43	12	2007				愛知			広島大	福岡
53	44	13	2008			芝浦工大					
54	45	14	2009	北大	郡山	東京					
55	46	15	2010			東大生研		神戸			福岡
56	47	16	2011					京都	愛媛大	広島	
57	48	17	2012	札幌			名城大				
58	49	18	2013				岐阜	神戸大	高知		
59	50	19	2014			早稲田大					北九州
60	51	20	2015		東北工大	東京		福井			長崎
61	52	21	2016		秋田					山口	九州大
62	53	22	2017					大阪		岡山大	沖縄
63	54	23	2018	北大			静岡			山口	
64	55	24	2019			埼玉大	名古屋	滋賀			
65	56	25	2020			群馬	富山県大		高知		
66	57	26	2021						愛媛大		

水シンポ  
担当部会  
河川  
環境水理  
基礎水理  
水文  
河川  
環境水理  
基礎水理  
水文  
河川  
環境水理  
基礎水理  
水文  
河川

赤字: 未定

# 第65回水工学講演会 開催案

開催日時 2020年11月4日(水)、5日(木)、6日(金)  
開催場所 富山県民会館 (<https://www.bunka-toyama.jp/kenminkaikan/>)  
富山きときと空港から富山市役所前まで 直通バス25分  
富山駅から徒歩10分



第1会場兼  
シンポジウム会場

# 第65回水工学講演会 開催案

## 部屋割と予算案

時間区分			1日目(11/4)		2日目(11/5)		3日目(11/6)		合計
部屋種別	部屋番号	定員(学校)	9時～22時		9時～22時		9時～22時		
事務局	509号室	42	19,900		19,900		19,900		59,700
会場1	ホール	1000	154,100		154,100		154,100		462,300
会場2	304号室	144	98,150		98,150		98,150		294,450
会場3	401号室	153	50,700		50,700		50,700		152,100
会場4	611号室	90	44,100		44,100		44,100		132,300
会場5	701号室	81	40,350		40,350		40,350		121,050
会場6	702号室	45	25,350		25,350		25,350		76,050
時間区分					部会(3時間)				
委員会①	501号室	24	/	/	/	5,850	/	/	5,850
委員会②	502号室	18	/	/	/	3,950	/	/	3,950
委員会③	503号室	24	/	/	/	5,100	/	/	5,100
委員会④	504号室	24	/	/	/	4,850	/	/	4,850
委員会⑤	508号室	24	/	/	/	5,850	/	/	5,850
								合計	1,323,550
								県後援(15%割引)	1,125,018
								県共催(30%割引)	926,485
								県観光振興室学会等補助金	-200,000
								(県外1名につき1000円補助, 但し上限20万)	
								富山市コンベンション開催事業補助金制度	-450,000
								(3日間、最大399人が参加と仮定)	
								県後援(15%割引)と仮定	475,018

# 令和2(2020)年度水工学に関する夏期研修会 (水工学委員会担当)

協議資料3-3

担当：森脇委員(愛媛大学)

開催県：高知県

開催日：R2(2020)年8月(未定)

備考：高知高専・岡田先生，高知大・張先生の協力有

大型コンベンションセンター誕生




**Gメッセ群馬**  
G MESSE GUNMA

**2020年春 高崎駅東口にオープン**

11万㎡の敷地 3万㎡の屋内外展示スペース 17の会議室 2,000台の駐車場  
国際会議・大規模学会・1万人のコンサートにも対応

**Gメッセ群馬**  
G MESSE GUNMA  
〒370-0044  
群馬県高崎市岩押町12番24号

Google Mapで見る

東京駅から  
**50分!!**  
抜群のアクセス!

新潟空港 新潟 上越新幹線 北陸新幹線 上信越自動車道 高崎 (TAKASAKI) 宇都宮 水戸 北関東自動車道 仙台 茨城空港 成田空港 東京 羽田空港 横浜

水シンポジウム2020・ぐんま

場所 Gメッセ群馬 (高崎市)

開催日  
11月12日 (木) : シンポジウム  
11月13日 (金) : 現地見学会

# 令和3年度以降の水工学講演会 のスケジュールについて

## <経緯>

- ・第62回(2017年度)まで3月開催
- ・第63回(2018年度)11月開催
- ・第64, 65回も11月開催を維持
- ・**動機: コンサルが参加しやすい時期に設定する**

## <懸念事項>

- ・会場費の増加
- ・**コンサルの参加者は増えたか?(参加しやすくなったか?)**



参加者の動向を見て検証すべき

## 第62回(2018/3, 岡山大開催)

### 全体の参加者数

	コンサル	他企業	全体
人数	69.0	20.0	523.0
割合[%]	13.2	3.8	100.0

## 第63回(2018/11, 北大開催)

### アゲールシンポ+河川災害シンポの参加者数

※全体の参加者を把握できなかったため

	コンサル	他企業	全体
人数	42	17	220
割合[%]	19.1	7.7	100.0

# 水工学論文賞選考委員会

## 水工学論文賞，同奨励賞候補論文について

### 水工学論文賞・論文奨励賞内規 主要部抜粋

#### 2.対象論文と授与件数

【水工学論文賞】原則として1論文に授与。

【水工学論文奨励賞】講演会開催年の3月31日に32歳以下の発表者個人に授与。  
過去の受賞経験の無いこと。原則として2-3名に授与される。

#### 5.審査方法

(4) 査読報告をもとに水工学論文賞選考小委員会にて水工学論文賞候補推薦論文および水工学論文奨励賞候補推薦者の決定を行う(第1段審査)。

~~(7) 第1回水工学論文賞選考小委員会にて水工学論文賞候補論文および水工学論文奨励賞候補者を決定する(第2段審査)。~~

(8) 第1回水工学委員会において水工学論文賞受賞論文ならびに水工学論文奨励賞受賞者を審査決定する(第3段審査)。

#### 【候補論文について】

✓奨励賞の受賞制限(年齢，過去の受賞歴)に抵触する候補論文は無し

# 議論のポイント

- 投稿ジャンルは今のままでよいか？  
論文だけでなく，報告，総説等を作るか？
- 通常号との連携強化はさらに必要か？ 具体のやり方は？